

嫁ガチャ！

即席brain

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

知らないアプリが勝手にインストールされ、そのアプリのガチャを回すと家や嫁が生えて来る現象に見舞われた男の話。

目 次

プロローグ 嫁ガチャヤ	1
第1話 金曜限定ガチャ	6
第2話 土曜限定ガチャ	11
第3話 スタートダッシュユガチャ	17
第4話 月曜限定ガチャ	22
第5話 懶惰な昼下がり	27
第6話 3人目	32
第7話 火曜限定ガチャ	37
第8話 スライム娘	42
第9話 水曜限定ガチャ	47
第10話 ムーンゲート	52
第11話 観光	57
第12話 願望	62
第13話 ステップアップガチャ	67
第14話 蹤躡	72
第15話 引っ越し	76
第16話 煙天使	80
第17話 G W	85
第18話 日曜限定ガチャ	89
最終話 真実	93

プロローグ 嫁ガチャ

とある日のこと。

いつものように家から徒歩10分のコンビニへバイトに行き、ウーバーイエーツの配達も終え今日も変わらずワールームマンションの自室でゴロゴロとしている最中。

スマホをポチポチしていたらいきなり『嫁ガチャ!』というアプリのダウンロードが始まり、バナー部分には「嫁ガチャ! 新婚キャンペーン実施中! 今だけUR確定10連ガチャ引けます!」という通知が入る。

こんなアプリを予約した覚えは無いし、ちょっと薄気味悪かつたので削除をしようとアプリのボタンを長押ししたら、そのままアプリを開いてしまい、唐突にガチャ画面のようなものが映る。

え、待つて。利用規約とかデータのダウンロードとかが無いつてどういうことなの。画面には魔法陣のようなものが描かれて、宝石が集まって出来た光の球が天へと昇り、それが10個に分裂して地上へと降り注ぐ。いや待つて、画面を見届けている場合じやない。これ絶対に変なアプリだ。

そして初っ端に『SSR:一軒家(30000万円級)』という表示が出て来た瞬間、自分の場所というか、住む場所が変わった。慌ててベルンダの方を見ると、6階建てのマンションの5階に住んでいたはずなのに、なんかこじんまりとした庭が見えるね? 部屋の構造も変わっているし、何が起きた!?

外に出てみると、完全に一軒家になってるし表札には俺の苗字である『佐藤』の文字が。一軒家になつたつて、周囲の部屋の住人はどうなつたの? このマンションに住む他の住人、俺は全く知らないけど、何度か顔を見た人ぐらいはいるし……。

この時点では、俺は夢を見ていると思い始めた。たぶんバイト終わりで疲れてスマホを弄つたまま眠つてしまつたんだろう。だからこんな夢を見るんだ。ガチャの画面は次々と結果が出るフェイズに入り、最初のSSR以外はNが続く。

S S R : 一軒家（3000万円級）

N : ビー玉

N : カップ麺

N : ポケットティッシュ

N : 単三電池一本

N : 紋創膏（小）

R : よく切れるハサミ

N : ポケットティッシュ

N : 消しゴム

9つ目までのガチャ結果は、すぐに全て現実の物として出て来た。よく切れるハサミはポケットティッシュがサクサク切れるから確かによく切れるけど、全部タダで貰つても嬉しいような、あまり嬉しいないような……。いやカップ麺が無料はちょっと嬉しいかも。

そして虹色に輝く光の球は、きっと確定URなのだろう。その光は人型になつていき、美少女が画面に現れた。

『UR : [完璧召使] リーム・ヴエルザンディ』

外見は、めっちゃ身体のラインが分かるメイド服を着ている口リつ子だ。髪は銀髪で、褐色肌だな。背は低そうなのに、胸がたゆんとしている。絵を見ただけで優しそうで、活発そうであることは分かる。今までのガチャの結果からすると、もしかしてこの子も……？

「初めまして、旦那様。旦那様だけのメイド、リーム・ヴエルザンディです」

「ひっ!?」

そう思つた瞬間、誰もいないはずの背後から声をかけられて情けなくビビる。ついでに、唐突に現れた絶世の美少女の可愛さにビビる。褐色肌銀髪ロリ巨乳メイドと既に属性過多の人が、お化けのようにいきなり登場して自分に向かつて頭を下げているのは心臓に悪い。

距離にして、2メートル。未知の存在との距離を一步だけ詰め、頭を下げ続けるメイド服の美少女に手を差し出しながら「夢……？」と呟くと、そのメイドは俺の手を掴んで引っ張り寄せる。

うわこの子力強いと思う間もなく、倒れ込む俺の身体をがつしりと

抱えるメイドは、ニコリと微笑み豊満な谷間に俺の頭を誘導して抱きしめた。あ、柔らか……ノーブラ!?

「夢ではありませんよ? まずは落ち着いてください。あ、おっぱい揉みますか?」

「美人局、幻覚……いや、白昼夢か?」

「もー! 何で素直に喜ばないんですか!? こんな可愛い美少女を好き放題出来るんですよ!」

顔面に押し付けられる幸福を一瞬だけ堪能した後は、詐欺やドッキリ企画等の可能性を考慮。慌てて離れてスマホの画面の方を確認。するとガチャの結果画面が出て、次へボタンがあつたので条件反射的にタップしてしまう。

何か、またゲーム的なことが現実で起こるのかと身構えたが、そのようなことは起きずには画面には「ガチャをする」「宝石を買う」の二つの選択肢しか表示されない。一度ホームボタンからホーム画面に戻つて、再度『嫁ガチャ』のアプリを起動しても全く同じ画面。

ガチャをする、の方をタップすると宝石300個で1回ガチャ、宝石3000個で10連ガチャの表示が。10連ガチャの方は最低1つ、R以上が確定で出るみたいだけど、宝石が1個1円ということは、よく切れるハサミレベルのものが3000円で買えるということ?

「君は、このアプリが何なのか知ってるの?」

「リームです」

「リームさんはこのアプ

「リームです!」

「…………リーム、このゲームについて教えて」

「はい! お任せください旦那様!」

その後、リームに簡単なアプリの説明をされるけど、内容は至極単純。ガチャで回せば、現實にそれが手に入ること。俺がガチャを回すとその度に世界の上書きが起こるから、俺がそれを最初から所持していたことになり、不都合は特におこらないこと。

何か住んでいる場所がワンルームマンションから4LDKの2階建て一軒家になつたけど、それは俺が最初から所持していたことにな

るらしい。固定資産税とかどうするのと聞いたらそういう面倒なことは全部リームがやつてくれるとのこと。なんかもう胡散臭すぎて信じられない。

ついでに、ガチャの提供割合も聞けた。Nが90%、Rが9%、S Rが0・9%、SSRが0・09%、URが0・01%でそれぞれのリア度の内訳は細分化されているけど、Nだとポケットティッシュがその中の3割を占めているとのこと。うーん、300円でポケットティッシュは確実に損ではあるんだけど……。

……問題はこのガチャ、家や人が当たることだよな。というか初っ端に0・09%をよく引けたな俺。でもガチャを1000回ぐらい回せばSSRぐらいなら1回出る期待値は高い。宝石が1個1円であることを考えると、300万円で一軒家が貰える?

どう考えても都合が良すぎる話だし、未だにずっと夢を見ている気分。ネットでこのアプリについて検索しても、何も情報がヒットしないところとか胡散臭さを加速させているけど……。

ベッドに腰かけてうんうん悩んでいたら、リームが飛び掛かつてきた。え、と思う間もなく両方の腕を抑え込まれて、マウントポジションを取られる。力つよ!

「ほら、私の身体好きにして良いんですよ? どんなプレイでも進んでやる完璧メイドですよ?」

「待つて待つて! 力強い!? ぐつ、この……」

「あはは、ただの人間が私に力で敵うわけないじゃないですか。

もー、抵抗するならベッドの上で両腕を縛っちゃいますよー」

「ちょ、つく、離せ! んうつ!?」

「んつふふう?」

あむ、ちゅつ……ちゆる、じゆる……」

両腕を拘束された後は、顔を近づけて来たと思つたら唇を奪われる。ただの人間が力で敵うわけないという言葉から、リームは種族が人間じやない可能性が浮上した。天使か悪魔か、外見と行動からサキュバスとかダークエルフとかの可能性もある。

そしてそういう真面目な考察は、口の中の唾液を全て奪われ、代わ

りに送られてくるリームの唾液のせいで否応なしにかき消される。めっちゃ良い匂いもするし、当然下半身が反応して、どんどん大きくなってしまう。

「あ……うあ

「ああ、旦那様。弛緩した顔も素敵です。

それでは今から、旦那様の童貞を頂いちゃいますね？」

何故かキスをした直後から、身体には全く力が入らない。何か喋ろうとしてもうわ言になってしまふし、もはや抵抗は全く出来ない状態になつた。足が上がらないもん。何を飲まされたんだろう。

一度俺の上に座り直したリームは、メイド服の胸の部分だけを露わにして、パンツを脱ぐ。リームが俺のズボンとパンツをずらすと、そこには大きくそそり立つてしまつてゐる息子の姿が。

「仮性包茎。最後に皮の中を洗つたのは昨日のはずなのに随分と匂いが強烈ですね」

「……なあえ」

「何故昨日洗つたことを知つてゐるかって？何ででしようね？」

俺の疑問に対しても、特に気にせず答えたリームは、既に濡れている膣を押し付けるようにして俺の肉棒の上に乗る。既に固くなつてゐるため、今にも入りそうな状態だ。状況が呑み込めない俺を差し置いて、リームは手で陰茎を固定し、一気に膣内へそれを招き入れた。

第1話 金曜限定ガチャ

リームに犯され、脱童貞を迎えてから1時間後。既に5回以上射精しているのにも関わらず大きいままのそれを肉壺で咥え込み、延々と腰を動かし続けるリームを押し退けようとするも射精のし過ぎで力が入らない。それどころか、大きい胸に手を誘導され、揉むように言われる。

「んっ、もつと旦那様も好きに動いて良いんですけどよ？」
「無理……眠い……」

こちらが6回目の射精をしそうになると、パンパンと腰を打ち付けた後、ぐりぐりと膣奥で亀頭を撫でまわすような腰の動きになるリーム。初挿入の時は30秒も持たなつたが、5度射精して疲れ果てた今でもこの動きをされると1分の我慢も出来ずに、リームへ中出しをして意識が遠のく。いやよく創作物で1日に10回射精している人とかいるけど、俺の1日の最高記録は5回。こんな短時間に6回も出したことは一度もない。

やがて襲い来る強烈な眠気に抗えず、目を閉じて眠る。起きた時にはリームの姿はなく、あれは夢だったのかとも思つたけど、机の上に置いてあるよく切れるハサミ×2と、窓から見える景色が違うせいで夢ではないと理解する。

……現時点ではリームの正体は第一候補がサキユバス、次いで宇宙人、未来人、異世界人つてところだろ。現代に生き残るくノ一とかそういう可能性も捨てきれないな。

というかヤバイ！今日もバイトのシフトが入つてる！朝の8時からのシフトで、今の時間が9時半。あ、終わつた……。

「大丈夫ですよ、旦那様。もうコンビニバイトは辞めると連絡を入れておきましたから」

「はああああああ！いや何してるの!?コンビニバイトでも面接通るのが大変だつたんだからな?」

「大丈夫です。今日は金曜日なのでお金が必要なら曜日ガチャを回しましよう。毎日1回だけ、曜日限定ガチャを回せますよ?」

「曜日ガチャ?」

…………それ3000円かかるんだけど、曜日ガチャってどういうシステムなの?」

「金曜日はガチャでお金関係の物しか排出しなくなる代わりに、最低レア度がRになり、最低1回はSRが出ます!」

どうやつて店長に言い訳しようか考えていると、リビングの方向から現れたりームがガチャを回せと言つて来る。既に一度スマホが鳴っていたようで、リームが代わりに出て辞めることを告げたらしい。何やつてくれるのこの子。

そして曜日限定ガチャの説明を受けるけど、昨日はそんなものなかつたのにアプリを開いたら曜日限定ガチャの項目が出来ている。どうやら昨日の木曜日の曜日ガチャは未実装だったようで、日曜日と木曜日以外の曜日は実装されているとのこと。

曜日ガチャはSR確定ですよと言われて、半信半疑の中1万円の課金を行う。う、貯金が残り10万を切った。今月の家賃は大丈夫かな……。

……あ、そういうえば持ち家になつたから家賃はいらないのかな?となれば、確かにコンビニのバイトとかせずウーバーの配達だけでも生きていけるかも。まあとりあえず、この金曜限定ガチャを回してから色々と考えるか。

前回と同じように、宝石が集まつて出来た光の球が天へと昇り、それが10個に分裂して地上へと降り注ぐ。本当によくあるガチャ演出だけど、よくアプリゲーをやる身としては、この画面にワクワク感を感じてしまうのも事実。

スキップボタンが出ていたので、それを押すとすぐにガチャの結果が表示される。

R : 密林ギフト券3300円

R : 現金3000円

R : 現金3000円

R : 図書カード3300円

R : 現金3000円

S R : 密林株 1 株

R : 現金 3 0 0 0 円

R : 宝石 3 0 0 0 個

R : プリペイドカード 3 3 0 0 円分

S R : 金 1 0 0 g

……何だこれ。

いや、S R 確定とかこのガチャ結果見たらいいらない気がするんだけど。え、これ本当に全部貰えるの？うわ、金塊が出て来たし図書カードや1 0 0 0 円札がたくさん降って来た。株に関しては……何か証券会社のアプリが勝手にダウンロードされていて、そこに密林株が1 株つて表示されている。日本円で、大体 4 0 万円ぐらい？俺の全財産簡単に超えてくるじやん。

「とりあえず 3 0 0 0 円ほど頂いて、旦那様の寂しい冷蔵庫の中身を埋めて来ますね？」

それと通常ガチャでも現金は結構な確率で出ますし、元は取れると思いますよ？だからどんどんガチャを回しましょう！UR が当たれば、嫁も増えますよ！」

「……怪しそうだろ。目的が読めない。」

リームは宇宙人か？それとも天使や悪魔の類か？

「旦那様は鶴が恩返しに来た時、好奇心を抑えて綺麗な織物をたくさん貰うタイプですか？それとも好奇心に負けて、全てを失うタイプですか？」

「分かった。何も聞かずに素直にガチャは回していく。」

「……だけど、考察ぐらいは続けても良いよな？」

「まあそれぐらいなら。気になるのは仕方ないです。」

「それでは行ってきますね」

リームは出て来た現金を 3 0 0 0 円ほど持つて行き、近くにあるスーパーの方角へ歩いて行つた。残りのお金は 9 0 0 0 円だけど、これだけでも俺の 1 日の稼ぎをゆうに超えたな。

というか S R の金と密林株、どちらも数十万円規模の価値だと考えると働く必要性が無くなってしまった。いや、急激に収入源がなく

なつたら怖いし貯蓄とバイトは続けたいけど……とりあえず残りの宝石が7000個あるから、2回10連ガチャしようか。

1回目

N : ポケツトティッシュ
N : 密林ギフト券330円

N : 冷凍パスタ（たらこ）

N : コピー用紙100枚（A4サイズ）

N : 単四電池1本

N : ポケツトティッシュ

N : 綿棒50本入り

N : ポケツトティッシュ

N : 力の種1個

R : 特上松坂牛1kg

2回目

R : 丈夫な靴（26センチ）

N : 宝石300個

N : ポケツトティッシュ

N : 入浴剤（柑橘系3個）

N : トイレットペーパー4個

N : ポケツトティッシュ

N : ポケツトティッシュ

N : うまうま棒30本

N : ポケツトティッシュ

R : 守りの種10個

……うん。Nで宝石300個ということは元返しがたまにあると
いうことか。ポケツトティッシュは1個300円と考えると明らか
に損だし、他にも300円以下の物は結構あるけど、Rの松坂牛だけ
で元は取れる気がする。そして丈夫な靴に関しては、何でピンポイ
ントに俺のサイズが出るんだ。そんな登録はしてないぞ。

なんかこの家に監視カメラもあるんじゃないかと不安になるけ
ど、鶴の恩返しの話をしたということは詮索しない方が良いのだろう

か。下手に考える性分のせいで損をしている気分。

で、前回の金曜ガチャの結果で出た宝石3000個を受け取つて、3度目の10連ガチャ。URが0.01%ということは滅多に出ないんだろうけど、SRやSSRはまだ期待が持てる確率だ。

しかし現実は無情であり、3回目はR・現金3000円以外特筆すべきものが出ない。いや、3000円帰つてきている時点で圧倒的にプラスではあるんだけど……これ、サルのパチンコ実験を人間でやってない?本当に大丈夫?

『嫁ガチャ!』のアプリを起動して、説明書とか開発元がどこかの情報を探すも全く手掛かりがなく、ネットの掲示板でスレ立てしても芳しい反応は帰つて来ない。仕方なくうまうま棒(コーンスープ味)をボリボリ食べていると、リームが帰つて來た。

「ただいま戻りましたー。

あらー、その様子では爆死でしたか。帰つたらもう2人ぐらい旦那様の嫁が増えているかと思ったのですが

「おかえり。

いや、0.01%なんて早々でないでしょ。……100000回ぐらいい回しても6割ぐらいの確率でしかURは当たらないし

「300万円ぐらい、金曜限定ガチャを毎週回していれば一月で貯まりますし、月末はステップアップガチャで確実に嫁が増えますよ!」「何でお前はそんなに楽しそうなんだ……」

「お前じゃないです!リームです!」

URが出るのは、通常時だとちよつと厳しそうだけど、それこそこの3000万円の家を売れば10人ぐらいは期待値的に出るということで、早くもガチャを回すことについて考えてしまう。というかこのガチャ食糧が出るし、家も出るし、嫁も出る。凄いな、このアプリ人生の全てを得られるじやん。

第2話 土曜限定ガチャ

2021年4月16日。相変わらず世間の話題はコロナ一色で、7月の東京オリンピックをやるやらないで揉めている。……個人的には全ての人種と全てのコロナウイルスを1カ所に集めることになるから、コロナウイルスにとつて変異のための最高の条件が揃うことになるし、止めた方が良いと思うけどこのままやりそうだなあ。

つと、そうだ。

「力の種って何？食べたら力が増えるの？」

「ええ。ほんの少しだけですが。味は悪くないですし、外れ枠でどんどん出るので食べてみることをオススメします」

「完全にゲームの世界の産物だし、ドーピングだなこれ。

……せめて不味くあれよ。ほぼ無味無臭とかリアクション取り辛いわ。食感も微妙に硬いし」

「それを食べると……えー、あー、この世界の成人男性1人分の力が計算されるようです。良かつたですね！旦那様の握力が31kgから66kgに増えましたよ！」

「はあ？！」

……これが今後もどんどん出るとか不安でしかない

力の種と守りの種という二つのピーナッツ状の食べ物が出て来たので、聞くと無害そうだったので食べてみたら有害だった。たつた1個でゴリマッチョ並みの筋力得たじやん。守りの種なんか10個あるんだけど食べたくねえよ。

「では私が食べますね」

「え、あ、ちよつ!?」

「うーん、相変わらずマイチですね。

あ、ご飯がそろそろ出来ますよ！美少女の手料理なんて、旦那様にとつて小学生の調理実習以来のことですね！」

「それ煽つてるの？」

「いえ。ですがちよつとは意識して欲しいなーって」

そしてその守りの種を躊躇なくポリポリ食べるリーム。こいつの

故郷というか出身世界には普通にある食べ物なんだろう。なんかもうヤベー種族としか思えなくなってきた。

リームの用意した手料理は、鯖の煮付けにほうれん草のお浸し。味噌汁にきんぴらごぼうと妙に家庭的な料理。食べてみると薄味ながらも美味しいし、めっちゃ栄養バランスとか考えてそう。

「……おいしい」

「完璧メイドですから。この地球上にあるありとあらゆる料理は頭に入りますよ」

「もうその言葉が人外の言葉なんだけど。

……何が目的なのかは分からぬけど、生活レベルが上がるのを拒否する理由にはならないし、これからもお願ひします」

「はい、お願ひされました。

とりあえず家事は私が全て引き受けますので、旦那様はガチャを引きまくつて下さい」

朝ご飯か昼ご飯か分からぬ時間帯の食事を取つた後は、ガチャを引きまくつて下さいと言われるけどそもそもいかない。出かける準備をして、コンビニの制服の返却のため、徒歩10分先のコンビニへと移動する。色々と考えたけど、この『嫁ガチャ!』で毎週金曜日に数十万の収入があるなら、この収入源が断たれるまではコンビニバイトへ行かなくとも良いだろう。

店長に一身上の都合によりバイトを辞めますと告げると、店長は特に引き留めることもなく制服を受け取る。これで来週以降『嫁ガチャ!』でお金が入らないとか、今までのが全部幻覚でしたとなつたら詰むな。

その足でそのまま、課金のためのプリペイドカードを9000円分購入する。もう今月はクレジットカード使えないから仕方ないね。これでとりあえず、3回分。

……まあ、土曜日限定ガチャもありそだしこの課金分はそれを待つか。日曜日と木曜日以外なら実装されているとのことだったし、こんな意味不明な状況でも、どうせならお得なガチャを回したい。

ちよつとマンションに住んでいた人がどうなつたのか確認した

かつたけど、テナントビルが建つはずだつた空き地に似たようなマンションが既に建つていて、たぶんそこに引っ越したというか、そういう世界になつたのかな？なんか本当に、あのアプリを起動するのが怖いんだけど。

一通り現状を確認した後、家に戻るアリームがベッドの上をポンポン叩いていたけど無視。昨日自分でも怖いぐらいに出したのに今日もまたやるつもりかよ。

「旦那様まだ20歳ですかねえ!? 性欲有り余つてますよねえ!? ほら、おつきいおっぱいに顔を埋めても良いんですよ? 思いつきり吸い付いたり揉んだりしても良いんですよ?」

「明日やるから。今日は午後からゲームする予定だつたし諦めてくれ」

「高校時代の友人で、旦那様と同じフリーターの斎藤様と通信制大学に通いながらパン屋でパンを焼いている植田様と東大に現役で合格した高橋様ですか。……高校時代、同じ教室で卓を囲んでいたとは思えない面子ですね」

「……どこまで知ってるんだよ。頭の中を読めるのか？」

「ふふつ、秘密です」

パソコンでオンラインゲームを起動して、いつもの面子で遊ぼうかと思つたら頭の中を読んでいるとしか思えないリームの言葉に恐怖を覚える。もうリームに関しては、俺の出生から全ての行動を知つているという認識でいた方が気は楽だろくな。

本来なら喜ばしい状況なのだろうし、もう何も考えずにでつかいリームのおっぱいに埋もれてしまいたいけど、鋼の意思でそれを耐える。例え相手が上位存在で何も考えずに欲に従つた方が良いと分かつていても、考えるのを完全に止めるのは俺の性分に反する。

『反応おせーぞさとー。A—3まで突つ込め』

『いつもと様子が違うけど、何か悩み事か？』

『いや、別に何も』「旦那さまーー! 晩ご飯が冷めてしましますーー!」

『……おい、何だ今の声』

『……彼女か? 同棲始めたのか?』

『ギルティ。殺せ』

「ああああああああ！味方を撃つなあああ！」

とりあえず旧友とのオンラインゲームで分かつたことは、俺はこの家を両親から引き継いだことになつていてるらしい。3年前、高校在学中に蒸発した両親から何も俺は引き継がなかつたはずだけど、どうやらこの世界では同じ時期に事故死しているようだ。

……この4人の集まりで、今まで彼女持ちだつた奴がいないのは変わつてなかつたがな。リームの声が入つた途端に、3人の殺気が高まりあつさり殺される自キャラ。背後からヘッドショットとか殺意高すぎるでしょ。まあ、通報するのは勘弁してやるか。

ついでにアプリについても都市伝説風にさりげなく聞いてみたが、見事に全員聞き覚えがない上、ありとあらゆる媒体でそのようなゲームをダウンロードする環境は無かつたとの報告が入る。やべえ、墓穴掘つてる。

最終的にはゲームの音声と言い訳をしたけど、結局3人には疑われたまま深夜の0時を迎えたので解散。斎藤と植田は明日の土曜日もバイトだし、高橋も最近家庭教師を始めたとかで忙しそうだ。……高校で毎日俺らと麻雀して、それで東大に一発で合格した天才に中学生や高校生を教えられるのかよとは思う。

0時過ぎ。リビングへと行くと、ニコニコ般若顔のリームが。やべえ、上位種族怒らせたらこええ。

「ご友人と集まる日は0時過ぎまでゲームをするのは把握していましてが、せめて晩ご飯は8時頃までには食べて欲しかったです」

「……ごめん」

「別に構いませんけどね。冷めてもレンジでチンすれば美味しい炒飯と、温め直せば何も問題はない中華スープですから」

リームから差し出された器を受け取り、もぐもぐ美味しい炒飯を食べていると『嫁ガチャ！』の曜日ガチャが更新されており、土曜日限定ガチャに切り替わっている。単発1回で3万個。10連ガチャで30万個の宝石が必要とのこと。

……は？

「え、なに、これは？10連1回30万円！」

「ああ、土曜日限定ガチャは土地が手に入るの、単発1回分でも高いですね。ですがこの曜日、ガチャもお得で、不動産関係しか出ない代わりにSR以上しか出ないガチャですよ！」

「……不動産が手に入つても、活用する術とか知らないんだけど」

「それは私にお任せ下されば、旦那様は寝ているだけでお金が入つてきますよ？最悪でも売れば元が取れます」

あまりの高さにヤバいと思つたが、リームの説明を聞いて3万円で不動産が確定で手に入るとかヤバいと思った。とりあえずリームに金100gを売るよう命令してみたら、すぐに貴金属買い取り店に行き、ものの30分で66万円の現金を手にして帰ってきた。あ、じゃあ10連ガチャ回せるね？これで不動産が本当に手に入るならヤバイってレベルじゃないね？

相変わらずの演出が入つた後、お馴染みのガチャ結果画面が表示される。ようやくこの異常事態に身体が慣れ始めたというか、思考が追いついてきた気がするな。

SR : 土地10坪 (○○県○○市)

SR : 土地5坪 (○○都○○市)

SR : 土地10坪 (○○県○○市)

SR : 小屋 (土地8.9坪 ○○県○○市)

SR : 土地10坪 (○○県○○市)

SR : 土地8坪 (○○府○○市)

SR : 土地10坪 (○○県○○市)

SR : 土地100坪 (○○道○○市)

SSR : アパート (5000万円級)

……そしてガチャ結果に絶句した。このアプリを開発した人絶対頭おかしいわ。人じやない可能性の方が高いけど。たぶん、人の尺度で計り知れない存在だと思うけど。

ちよつと身体の震えが止まらなくなつてきた。とりあえずリームに今回の土曜限定ガチャで出た不動産は全部売つて来てとだけ言つ

て、ベッドの上に寝転がる。これ、早々に1万回とか回せるようになるんじゃない？となると、リームのような存在がもう1人増えるということだけど……。

……まあ、何か事情とかあるなら増やすのは早い方が良いでしょ。というか毎週これが手に入るとか、最終的にはつじつま合わせが酷いことになりそう。あの脣両親が資産家とかにジョブチェンジしそうで笑える。……結局のところ、俺はこれに依存していきそうだな。

第3話 スタートダッシュユガチャ

土曜日の朝。目が覚めるとリームが目玉焼きを載せた食パンを用意してくれていた。どうやらこの家以外の不動産を全部売却するのに6時間ぐらいかかるらしいけど、どうやって金曜日の深夜から土曜日の朝にかけての6時間で売却したんだろう。土地の売買にかかる時間とか知らないけど、絶対6時間じゃ終わらないでしょ。それも、10カ所もあつたのに。

俺の預金口座をアプリで確認すると、1億8千万円という一桁どころか二桁見間違えたのではないかという大金が入っている。振り込みがはえーよ。若干この家に置いてある装飾品のグレードが上がっているし、世界を上書きするのも大変なんだろうなあと思った。

そしてリームに勧められて、URが出るまでひたすらにガチャを引きまくることにした。と言つても課金するのは今回得た1億8千万円の内、6000万円分だけと決める。リームが税金とか気にしなくても大丈夫ですよとか言つてたけど、それでも今回得たお金を、全額突っ込む勇気はない。

というかこれで2万回のガチャをまわせるつてす、こいな。10連ガチャを2000回やるとか時間がいくらあっても足りない。

これが富裕層のお遊びですかと思いながら、土曜日丸々1日を使ってガチャを引き続ける。10連1回20秒ぐらいだから、2000回分回し切るのに必要な時間は4万秒。およそ11時間です。

実際にはSRが出たりSSRが出た時に色々と確認しているから、本当に朝から夜まで12時間以上回し続けてようやく10連を2000回分の宝石6000万个を消費し切る。何だこの作業。「なんというかその……旦那様つてガチャ運が意外と無いですね？SRも少なかつたですし」

「計算上は、86%で1回以上URが出るはずなのか。

……まあ残りの14%だつただけだししようがないな。というか

SSR：エクスカリバーとかどうやつて活用すれば良いんだよ」

「どんな魔王が来ても一振りで倒せますよ？」

「地球上に魔王なんていないぞ」

S S Rが当たった回数も8回と少ない。こつちは0. 09%で出るはずだから2桁は出ないとおかしいのに。しかも武器とか防具が当たつても嬉しくない。当たつて一番うれしかったのがS S R・密林株100株という時点で……。

……いつかこれ、地球経済壊れそそうだな。

「今日は日曜日で曜日限定ガチャがないことは、月曜日まで起動しなくとも良いか」

日付がいつの間にか日曜日になり、そんなことを呟いた途端に、スマホのバナーに『姫ガチャ！スタートダッシュユガチャ開催！今だけ宝石3000個でUR確定ガチャ実施中！スタートダッシュユガチャを回して他プレイヤーと差をつけろ！』と表示される。何で3日も経つてからスタートダッシュユガチャを実装するのか。というかこのアプリに他プレイヤーなんているのか？

「……回すか」

「お？ ようやく素直になりましたね。男の子はそれで良いんです！」

ハーレム願望は健全な欲望です！

「他プレイヤーがいる可能性を示唆されたなら、化け物は一匹でも多く増やしておいた方が良いだろ」

「匹？ 今嫁のことを人じやなくて匹で数えました！」

「ええ、化け物という部分の方を否定して欲しかったんだけど……」

スタートダッシュユガチャが新しく追加されていて、制限時間が72時間になつており、画面の時間が一秒ずつカウントダウンしている。別に、従わずにカウントダウンが終わるのを待つてみても良いけどあまりに反抗的だつたらプチッと俺の存在が潰されそうで怖い。

先ほどの宝石6000万個分を回した時に出た宝石23万個の内、3000個を使用してスタートダッシュユガチャを開始。確定演出なのか、虹色に輝く光の球が人型を形どつて……人型？ 羽があるぞ？

UR：【力天使】マルエル

やがて光が収まつたと思つたら、十字架っぽい槍を持つた金髪つるぺた幼女の絵が表示され、同時に背後にヤバイ気配を感じる。振り向

いて飛び退いたら、空中に浮かんでいる天使がそこにはいた。流石に槍は持つてないけど、空中に浮かんでいるつておかしいだろ。その羽でどうやつて飛んでいるんだよ。

「ナオヤ！」

そして若干舌足らずな甲高い声で、俺の名前を叫びながら飛びついでくる。唐突過ぎて回避が出来なかつたし、こいつは何故俺の名前である尚也なおやを知つているのか。そういう次元の話ではなくなつて来ているけど。

「うぐ、こいつも力強すぎるだろ……！」

「ナオヤ、抵抗する？」

なら、ナオヤから犯して？」

抱き着いて来る幼女のマルエル？を引きはがそうとすると、マルエルが手を俺の額に当てる。何か来る！と思つて目を閉じ身構えたが、何も起きずに数秒が経過し、拍子抜けして目を開けると裸になつたマルエルがいた。すっぽんぽんの幼女という時点で犯罪臭が凄い。

あ、くそ。絶対に何かされた。めつちや犯してえ。別に口リ趣味があるわけじゃないし、S気があるわけじゃないけど、小さそうなまんこに無理やりちんこ突っ込んでマルエルの身体を強引に動かして肉オナホにしたい。

何故か湧き出て来る犯したい欲を抑えきれず、右手でマルエルの首を掴んでベッドの上へと押し倒す。マルエルの方は特に抵抗もせず、むしろ足を大きく広げて誘つて来る。

左手だけでズボンを強引に脱ぎ、既に膨らんだ亀頭をマルエルの割れ目に押し当てる。粘度の高い愛液が溢れて来た。思考が全て「気持ちよくなりたい」一色になつた時、俺は腰を突き出し、マルエルの小さな蜜壺へと押し込む。

「んふううう！」

「ああ、きつ……！」

両手を口に持つて行き、声が出るのを抑えているマルエルは、足をしつかり腰へ回してくるが、腰を引こうとしても引けないぐらいにマルエルの股は俺の一つをガツチリと咥え込んでおり、痛いぐらいに締

め付けて来る。

というかこちらが動いていないのにも関わらず、マルエルの膣内は根元、竿、亀頭を順番にぎゅつぎゅと締め付けてきてあつという間に動けなくなる。ヤバイ、もう出そう。

「……旦那様はS寄りのMなので強引に射精させた方が良いですよ。
というわけで旦那様、腰振りピストン頑張りましょうね」

「え、ちょ！あっ！あっ！」

そしてピタツと止まつた俺の身体を、背後から動かす存在が現れる。リームだ。背中に大きな胸を押し付けて、腕を前に回して強引に俺の腰を動かすけど、腰を動かした瞬間にえげつない快感が全身を襲う。

それと同時に射精してしまい、脱力感からマルエルを覆うようにしてベッドの上に倒れ込んだ。

「もう、もつと……」

「あ！旦那様に何を使つて!?」

肩で息をする俺に対し、不満気なマルエルは再度俺の額に手のひらを置く。絶対こいつやべえ事していると理解はしても、避ける術はない。

数瞬のめまいの後、気が付けば俺は大型オナホールのように左手でマルエルの腰を掴み、右腕でマルエルの身体を支えて、マルエルを上下させていた。ガンガン膣奥に亀頭が当たるというか、何か入つてはいけないような場所までペニスが入っているような気がするけど、気持ち良すぎて止められない。

恐らくマルエルの身長は120センチ前後。体重はたぶん、体感5kgもないんじゃないかこれ。そんなマルエルをオナホのように上下させて、十数回のピストンの度に射精を繰り返す。

「もつとお、もつとお」

「あがつ、いひい」

「……旦那様。壊れたらエリクサーを使ってあげますね。今は2本あるので2回までなら死ねます」

柔らかいのにきつく締め付けて来るマリエルの膣の最奥に十数回

目の射精をした後、俺は意識を失った。

第4話 月曜限定ガチャ

俺がマルエルをスタートダッシュュガチャで引いたのは日曜日に日付が切り替わった頃。要するに深夜1時とかそのぐらい。

その後、マルエルを犯していたらいつの間にか日付が月曜日になっていた。というかマルエルを俺は気絶した後も犯し続けて精液を吐き出し続けていたらしく、リームが強引に引きはがしたらしい。そのまま眠つて、起きたら月曜日の朝だつた。時間の流れについていけなくて怖いんだけど。

「マルエルは今後俺の精神を操作するの禁止！」というか精神に干渉すること自体禁止！

「……むー」

目が覚めて再びマルエルが手を額に当てようとした時、何故か走馬灯が脳裏を駆け巡つたけどたぶん本当に射精のし過ぎで死にかけたんだな俺。何故か昨日当てたSSSR：エリクサーが2本から1本に減つてるし。

……もしこれで俺に命令権がなければ、明日には干からびた死体になつていた可能性があるとか怖すぎる。命令権があるかもしれないと気付いたのは、リームに対する要求や命令が全て断られなかつたらだな。しかし流石に自害しろという命令とかが通じるかは謎だし試す気もない。そもそもエロ方面だと命令は断られているし、単純に従いやすいだけか？

「旦那様。力の種や守りの種は味がなくて栄養も少ないので食べ過ぎるのは駄目ですよ」

「うるせー！明らかにドーピングでもしないよりはマシだろうが！押し倒されて口を塞がれたら抵抗できずに死ぬんだぞ俺！」

「しない方がマシですよ。いくらその種を食べたところで上がるステータスはずつなのに対し、天使のマルエルは5000兆ぐらいの力はありますよ？」

「……リームは？」

「マルエルの5倍ぐらいですね」

なんかもう彼女達は世界どころか次元が違う存在なのだと確信しているけど、現状何も問題は解決してないんだよなあ。……もしも他プレイヤーが居て、同じように化け物を召喚しているなら対策は必須。だつてこいつら簡単に世界を滅ぼしそうだもん。

俺が選ばれた人間とか、天地がひっくり返つてもあり得ない。そもそも先週までただの独身フリーターで孤独死一直線だつた奴だし、今でもまだ寝ている内に強盗とかに覚せい剤を打ち込まれたとかそういう可能性の方が高いと思つてる。

……アプリである以上、俺以外の人間にもダウンロードされている可能性は存在する。だとしたら流石にスレ立てまでしたのは不味かつたな。他プレイヤーがいるかも知れないという認識は、他プレイヤーの方が早かつたかもしれない。

「ところで旦那様。私は本来ならば、昨日お情けを頂ける予定だったのですが」

「……えつ？」

「えつ？て、日曜日に相手するって言つてたじやないですか！一発だけでも良いので精液を下さい！」

「ふざけるなもう勃たないわうわパンツ脱がせるな近寄るなあ！」

ガツと抱き着いてきてズボンとパンツを脱がすリームに対して、本気で近寄るなど命令したのにも関わらず無視されあつという間に陰茎が露出する。それを見てうつとりした表情になるリームは、やはりサキュバスでは？

「一発だけな！それ以上やつたら怒る」

「かしこまりました！ありがとうございます！」

「……精液接種しないと死ぬとか、そういうのあるの？」

「いえ、嫁としての本能です。別にサキュバスのように精液を栄養源にはしませんよ。

それより、どこで射精したいですか？お口かお胸かおまんこか……別に、脇とか太ももとかなんなら足でも構いませんよ？」

「えー……口で。

うひょお!？」

リームに何処で射精したいか聞かれ、お口でと答えると微笑みながらパクリと竿全体を咥え込む。まだ半勃ちだから皮が被つている状態だけどその皮と亀頭の間に舌をねじ込んで来て、竿に巻き付いて来て……あれ、おかしい。舌が何本あるんだこれ!?

「何で、うぶつ!？」

「はむつ、ちゅう、じゅるつう」

「うふふ、私のフェラはどうですか？舌を3本に分割して、亀頭と裏筋と竿を同時に攻めちゃいますよ」

「んー！んーつ！」

思わず何でという言葉を口に出したところで、空中に浮いているマルエルが俺の舌を吸い出すかのようなキスをしてくる。なんか唾液が全部吸い上げられているような感覚だし、フェラしているはずのリームの声が聞こえるし、恐怖のせいで気持ちよさが増幅しているような気がするけどこれが本能かな？

口の中を吸い尽くされた後は甘いマルエルの唾液を流し込まれ、下半身に与えられる快楽のせいで立つていられないのにも関わらず、リームが抱きかかえるせいで倒れ込むことすらできない。やがて玉袋の裏側にぬめつた感触があつたと思ったら、お尻の穴に細くぬめつとした棒を当てられた感触が走る。リームが見えないことを良いことに、とんでもないことをしようとしているな。

「ふふああ、あつ、出る」

「え？」

「????待つて下さい！えい！」

「??！」

！じゅるじゅると先走りを吸い、全体を舐め回すように、舐め溶かすように這いまわる舌のせいであつという間にフル勃起。もう出そうになつたため、リームの頭に手を置き、腰を突き出すように射精しようとするリームから待つたがかかる。

直後、菊門からおそらく舌を分裂させたものが奥まで入り込み、全く痛みとか異物感はなく、何故か快感と射精欲が増幅した。あつ、不味い。

「出ましたあ！もつと、もつと！」

頭の中が真っ白になるほどの快感が、連續で襲い掛かり、射精が終わる前に射精をしている感覚に陥る。先ほどマルエルに何か飲まれたのか、リームから与えられる過剰な快感のせいかは分からないが、射精が全く止まらない。

時間にして、およそ10分ぐらい？ずっと射精時の放出感を味わっていた俺は一滴の精液も出なくなるまで吸い尽くされ、ようやくリームの拘束が外れた。

「ん、ご馳走様でした！」

流石は私。旦那様が気絶してません」

「でももう、息も絶え絶え？」

「回復魔法、使つてあげる」

もはや文句を言う根気も吸い尽くされ、後に残つたのはただただ気持ちよかつたという満足感のみ。もうあと3日もしない内に完堕ちしそうだな俺。

「今日は月曜限定ガチャを回せるので回しておきましょう。月曜限定のアイテムも出ますよ！」

「……月曜限定？」

リームのフェラで一滴残らず精液を吸い尽くされた後は、マルエルが俺の股間周辺に手を翳すと、何故か股間周辺だけ元気が回復していく。手から癒しの波動が出ているとのことで、マルエルが初めて天使っぽいことをしていた。手を翳すことで出来るの、洗脳だけじゃなかつたのか。

そしてリームから月曜限定ガチャを回すよう勧められるけど、金曜限定が金、土曜限定が土地と来れば月曜限定ガチャって月に関係するものが出るのか？

N以外の排出率が全部10倍になるようだし、とりあえず回してみると、SSRの演出が入る。10倍ということはSSRは0・9%だし、10連で来る時もあるわな。

S R : 精力の種 100 個

R : ローション

R : ソープマット

R : ローション

R : ローション

R : オナホール

S S R : ムーンゲート

R : ローション

S R : 精力剤 EX 10 本

「……どこから突っ込んだら良いんだ？」

「私でもマルエルでも好きな方に突っ込んで下さい」

「ムーンゲートって何？」

「スルーですかそうですか。

ムーンゲートは満月の時だけ旦那様の世界と異世界を繋げる門です。結構重たいです。たぶん庭に出現していると思いませんけど……今日は満月じゃないので見えないかと」

どうやら月曜限定ガチャは、月から連想させる夜に関わるものが出やすいようで、大量のローションを手に入れたけど使いたくねえ。当たりのはずのムーンゲートは、おそらくこいつらみたいな存在がうじやうじやいる異世界と繋がる門だろうし、関わりたくねえ。

今日の日付は、2021年4月19日の月曜日。次に満月になるのは4月27日だから、来週の火曜日に世界が滅亡するかもしけない。……何か猛烈に胃が痛くなってきた気がする。

第5話 懈惰な昼下がり

胃が痛くなってきたと思つたら、急激な便意を感じたのでトイレに引き籠る。さつきのフェラチオの際に、お尻をリームに侵されたからかな?と思つたら、単に守りの種を食べ過ぎたせいだとリームに言われる。

……あれ有害だったのかよ。いやまあよく考えたら、こいつらの世界の食べ物を食べて大丈夫であるという保証はなかつたけど。というか有害じやなくても過剰に食べ過ぎたらダメっていうものはあるよね。

力の種とか守りの種とか、黄泉戸喫である可能性すらあるし。しかし一応、SR・ワルサーPPKの銃弾を俺の腕の肌で弾いたことは確認出来た。化け物に囮まれてているからか、順調に俺も人間をやめ始めているな。

今日は月曜日ということで、本来なら今はコンビニバイトに行つてはづの時間帯だし、高校時代の友人3人は月曜日の昼間から俺と一緒にゲームに興じてくれるほど暇じやない。特に大学生組は講義があるし、他の人のとの付き合いもあるだろう。

……やろうと思えば幾らでもネットサーフィンで時間は潰せるけど、1日中ずっと部屋でゴロゴロするのもなあ。

「そういえば、精力の種つてどういう効果があるの?永続?」

「永続ですよ? 1つ食べる度に、射精回数の上限+1回とでも思つて貰えれば。

ですから、今日の昼ご飯には精力の種をいっぱい使いましたよ。褒めて下さい」

「……午後から今日当たつた奴全部使うから、準備しておいて」

「あれ、怒られない? もしかして旦那様の理性全部陥落しました?」

まあ、エッチなことは禁止という命令を出さなかつた時点で陥落寸前でしたが

「何でリームは一言どころか三言ぐらい多いんだ」

というわけで、理性を封じて一時の快楽に身を任せることにする。

……ここまで好都合な現象が続いた上、理性を常にガリガリ削られて
いる状況で眞面目に考察出来る人は、そうはいないんじゃないかな。
というかそろそろ一回思いつきり性欲を発散したい。犯される形
じやなくて、人外の快楽を叩きこまれながらの射精じやなくて、普通
に射精がしたい。

そういうことを伝えるとリームとマルエルがお風呂の準備をし始めたので、この間に先ほど手元に現れたオナホの包みを開ける。……
ティッシュとかトイレットペーパーが出て来る時は、基本的に俺がいつもスーパーで買っているメーカーのものだったけど、これだけいつも買つてる奴じやなかつたんだよな。

包みの方には説明書が張り付けてあるけど、オナホの説明書なんて初めて見た。1人暮らしを始めてからオナホを購入した経験は多いけど、箱の中身なんて大抵はオナホ本体を支えるためのプラスチックケースと1回分のローションだけだからな。

説明書の内容は、女性の愛液を入れるとその女性の性器と連結するという旨が書かれており、これがRつてリア度の設定が適當だなと思う。それと同時に、女性の愛液を入手出来る時点でオナホはいらぬのではないかと思つてしまふ。……これを使う機会はいつになるのか。

しばらくすると、お風呂の準備ができましたよと声をかけて来るリーム。何気にマンションの一室から家に代わって初めてのお風呂である。今まで気絶したように眠つて、朝起きたら何故か全身サツパリ綺麗になつているの繰り返しだったからな。何なら初めてこの家のお風呂の内装を見るぞ。

「おお、広い。前の家の2倍ぐらいはあるな」

「一般的な家庭よりも大きめのお風呂かと。まあこの辺の土地は安いので、3000万円級だとトイレやお風呂は大きくなりますね。

では旦那様。お背中をお流します」

リームとマルエルと共に浴室に入り、椅子に座ると背中側から豊満な胸を押し付けて来るリームに、つるぺた口リボディを前から押し付けて来るマルエル。背中側はリームのおっぱいはひしやげたと思つ

たら、ブルンと弾けるような感触をダイレクトに味わう。やつぱりデカいって正義だわ。

「ナオヤ、おつきくなつてゐる。

入れる？」

「おや、もう勃起しちゃいました？」

美少女2人に前後から裸で抱き着かれて、勃起を我慢できるとしたらそいつは男じやないか、射精をし過ぎて精魂疲れ果ててているかのどちらかだ。恐らく、お風呂に入る前に飲んだ精力剤EXを飲まなかつたら勃起には至つてなかつただろう。

石鹼でヌルヌルしているマルエルのお腹で圧迫されると、射精に至るような刺激ではないけど心地良いというか、ずっとこのままでいたい気分。しかしマルエルは一回立ち上がりと、お尻の穴を自分で広げて勃起したチンコを呑み込んだ。つて、そつち？

「そつちつて大丈夫なの？」

「安心して。

天使は排泄しない」

「そーですよー。」

天使にお尻の穴があるのは、完全に快楽用なので安心して楽しんでください」

強烈に締め付けて来る膣内とは違い、若干余裕があるというか、動かなければ刺激は少ないから暴発はしないな。動いたら凄く気持ちよくなれそうなことは分かるが、マルエルがゆっくり前から身体を絡ませ洗つているので少しもどかしい。でも一応、これが俺の要望通りなので満足です。

「こゝも洗いますね。

れえーえ」

「うひやう！」

しばらく前後での身体を擦り付けを楽しんでいたら、リームが舌で耳回りを舐めて来る。これエッチな音声で聞いたシチュだ。マルエルも真似をして耳を舐めようとするが、立ち上がつては滑つて尻餅をつくという行動を繰り返す。当然、チンコは挿入されっぱなしので

強い刺激が加わりあつといいうまに後ろの穴へ子種汁を放出する。

「ん、やつぱり前で味わいたい」

「マルエルのその身長だと、前に挿入したまま耳は舐められないんじゃないですかあ？」

「何で耳舐めしながら声を出せるんですかね……」

マルエルが一旦ペニスを抜いて、肛門を両手で広げると精液が垂れて来る。うわ工口い。これを写真で撮つたら、ロリコンは幾ら出すんだろうな。

そして前に挿入し直す前に、マルエルの身体が発光し出す。結構な光量だつたため、思わず目を瞑つて、ゆっくり開いたらそこにはマルエル（中学生版）がいた。

……さつきまで確實に身体年齢一桁のロリっ子だつたのに、いきなりJCかJKかぐらいの体格になるとビビる。羽根も大きくなつて、若干邪魔だなと思つたら羽が消えた。はいはい読心読心。

「どう？綺麗？」

声帯も変わつたのか、ロリ声から清らかな声に代わつている。天使つて年齢可変なのか。もう凄いなーとしか思えないわ。

「これなら、挿入しながらキスしても大丈夫よ」

「……ちなみに胸は可変なの？」

「残念ながら、もう少し身体が大きくならないと胸は大きくならないわね。

ロリの方が好みなら戻るわよ？」

「じゃあ戻つて」

「えー」

ロリに戻つてとお願いすると、ロリの姿に戻るマルエル。これが可変型ヒロインというものですか。もう色々と常識が壊れそういうか、壊れたんだが？

「中々珍しい光景を見れましたね。

あ、もう一旦泡を全部流しちゃいますねー。どうせならローエション使いたいですし、旦那様は寝つ転がつて下さい

「あ、今のはお前らの世界でも流石に珍しい光景だつたのか。

あつつつう!?

「あれ!? 42°Cで適温では?」

「せめて40°Cぐらいでお願いします」

リームにシャワーで泡を流された後は、ガチャで当たつていたソープマットに寝転がる。……山になつてる部分が若干気になるけど、既にローションの海になつてているのでなんか寝てているだけで気持ちいい。

さつきマルエルのお尻に出して若干小さくなつた息子も、リームとマルエルがローションを手に取り身体中に塗りたくつてはいるだけでも、大きくなつっていく。別に人外の強烈な快感を叩きこまれなくても、こういうエロい光景を見るだけで勃起するなあ俺。

リームのローション塗れの胸を持ち上げると、ぬるつと滑つてローションが弾け飛ぶ。何でローション塗れの胸つてこんなにエロいんだろう。そして期待通り、リームはその大きな胸を使って、大きくなつた一物を左右から挟み込んだ。

第6話 3人目

リームは自身の大きい胸を使うため、俺の足の間に割つて入り、俺のお尻の下にリームの膝を潜り込ませる。俗に言う膝上パイズリという体位だけど、ヌルヌルテカテカしているお胸が包み込んでいると、いうだけで視覚的に気持ち良い。

「あー、柔らかい」

「ずっと揉んでますね。飽きないですか？」

「飽きない」

左腕にはマルエルが抱き着いてきていて動かせないので、ゆるいパイズリを味わいながら、右手でリームの胸を揉む。柔らかくて指が沈み込んでいく感触は、ずっと揉んでいられるし股間に効く。

「はむつ、んっ」

左腕に抱き着いていたマルエルは、俺の左の乳首を咥えると、吸つたり舐めたり噛んだりしてくる。性的に直接的な気持ち良さはありませんでいく感触は、ずっと揉んでいられるし股間に効く。

肝心のリームのパイズリ自体に刺激は少ないので、たぽんたぽんと根本部分に双球が打ち付けられると存外に気持ち良い。交互に左右の胸を上下したり、ギュッと挟み込んだりと、リームが色々な刺激を与えてくれるので飽きないし、心地良い刺激だ。というか既に我慢汁が溢れしており、緩やかに精液が昇っていくのを感じる。

「んー、胸が柔らかすぎて刺激が足りないですか？」

「いやまあ、気持ち良くなれるんだけど……」

「じゃあ、思いつきり挟み込みますね」

このまま興奮を高めて射精しようとしていたら、リームが両腕でギュッと抱きかかえる。うわ、柔らかいのに凄い圧迫感だし、リームが長い舌を谷間に突つ込むけどその姿がもの凄くエロい。

そして次の瞬間、亀頭にちよつとざらついている、ぬめつとしたリームの舌が届き、チロチロと先端部を舐められる。胸も圧迫したままの上下を開始し、ゆっくりとこみ上げていた精液が、一気に溢れて

鈴口から飛び出る。

射精中も精液を舐めとるようにリームは舌を動かして来たため、最後まで気持ち良い状態が続く射精だつた。ふうと一息ついたところで、マルエルが精力剤EXを取り出し、口に含む。これだけでもう察せた辺り、俺もこの状況に慣れて來たな。

「んー、れえー」

マルエルは精力剤EXを口に含んだまま、マットに寝転がつて脱力している俺にキスをし、強引に精力剤を飲ませる。この精力剤、さつきリームのフェラで根こそぎ精液を持って行かれた際、一口で射精欲が回復したぐらいにはヤバイお薬です。後遺症とか副作用は絶対にない無害なものでないとリームは言つてたけど、ちょっとその言葉は効果が凄すぎて信用出来ない。

ほぼ一本丸々、マルエルの口移しで精力剤EXを飲み干すと、リームの胸に挟まっていたチンコがバキバキに勃起する。体感2割増しの大きさになつていて、敏感になつていてからか、リームのおっぱいの柔らかい肌が密着しているだけでビクンビクンと跳ねる。

リームの大きな胸に挟まれたまま、ピクピクと俺の意思とは関係なく跳ねるペニスは、しかし乳の牢獄から抜け出すことは出来ない。先ほどまでリームはおっぱいを抱えたり左右から掴んでむちゅんむにゅんと動かしていたのに、ガツチリとホールドする体制になつている。

じわじわと昇つて来る精液は、しかし激しく擦るような刺激がないので放出されない。マルエルからはチュツチュツとキスをしては舌を絡ませてくるけど、それだけでは射精が出来ない。

あまりのもどかしさに、マルエル越しにリームと目線を合わせて射精をさせてと目で訴えると、リームはニッコリ笑つて口を開く。

「では旦那様。たくさん普通の射精をしましようね。きっと凄く気持ち良いですよ」

リームがそう告げた瞬間、マルエルは俺の舌を吸い、リームは胸の圧迫を強くする。まだ刺激は弱いのに、普通なら射精には至らないのに、高揚感と軽いおっぱいからの圧だけで精液が漏れる。ずっと精液

が昇っていく感覚が続き、緩い射精がずっと続く。

なんか精力剤を飲んだ瞬間から精液が作り続けられているような感覚を味わっていたけど、それが尿道の先まで断続的に続いている。これヤバイ。

何回も射精をしている気分というか、連續して甘イキしている気分。実際、連續して絶頂に至っているのだろう。トップトプと精液がリームの谷間からあふれ出て来るけど、それでもリームは微動だにせずただひたすらに胸でぎゅーっと射精し続けているチンポを挟んでいる。

5分か10分か、やつとその射精が終わつたと思つたら「最後は思いつきり射精したいですね」というリームの言葉と同時におっぱいが高速で上下する。ローションが乾いてきており、射精が終わつて敏感になつている亀頭に強い摩擦が起つて目がチカチカするが、痛くはなくひたすらに気持ち良いつていうのは何かがおかしい。

結局、出し切つたと思つた精液が最後にピュツと出たところでマットプレイは終了。もう勃たない状態というか、完全に賢者モードに入つてリームとマルエルの2人に再度身体を洗つて貰つたところでソーププレイは終わつた。もうしばらくは射精しなくて良いわ。

お風呂から上がり、冷凍庫の中にあつたアイスを食べながら高そ

うなソファアの上で横になる。ああもう何もしたくねえ。

「リーム。1000回ぐらい10連ガチャ回しておいて」

「それは出来ません。旦那様自身が、何が当たつたのか把握していないと不味いですから」

「え、それって把握していないと不味いようなものが当たるの?既に結構な回数引いてるし……当たつたのは全部アプリ内の倉庫

に突つ込むだけなら問題は起きないだろ?」
「そのアプリ内の倉庫から勝手に出て来る可能性もあるので」

20000回ガチャを行つた時に当たつたアプリ内倉庫のお蔭で、当たつたものをアイテム化して倉庫内に預けられるようにもなつた。経済壊れる。冷凍マグロとかは倉庫内に入れておけば溶けないらし

いし、時間は進むようだけど保存は出来るということだな。

……倉庫に上限はないようなので、何回でも回せということだろう。まあ倉庫がなかつたらこの部屋がポケットティッシュで埋め尽くされていただろうし、非常にありがたい仕様だ。原理等の考察は放棄することにした。もう知らん。

ゴロゴロしながら、ひたすらガチャを回すと、何回目かは分からないがおそらく10連ガチャ50回目ぐらいでURの演出が入る。こういう低確率の最高レア度って、身構えている時には出ないもののに、来る時は拍子抜けするほどあっさり来るな。

画面では虹色の光の球が、人型になつて……人型?になつて……いやなんだこのシリエット。

UR : 【溶解姫】スーラ

光が収まると、青色の少女が画面に表示される。どう見てもスライム娘ですありがとうございました。もうこの家人外しかいねえよ。そして背後を見ると、青色のゼリーのような美少女がそこにはいた。青色というよりは、水色かな。透き通っているし、身体の構造はどうなつてているんだ。

「おー、すらいむ」

「ピイ!? 何で天使さんがここにいるの!? 止めて殺さないで悪いことしてないからあ!」

スライム娘に声をかけようとしたら、スライム娘は空中に浮かんでいる天使のマルエルを見るなりビビツて部屋の片隅にまで移動しブルブル震えている。なんか今までとは雰囲気が違つて弱そうだし可愛いな。

「おそらく人を数千人は食べ溶かしてきたスライムクイーンですね。

スライムは総じて知能が低いので旦那様は食べられないように注意して下さい」

「……は?」

「ああ、私は旦那様はそういう果然とした顔が一番好きです。

でもたかが数千人の死者程度で恐れないと欲しいですね。

私もマルエルもそこのスライムほど弱くないので」

怯えているスライム娘を見て、この子は強引に犯してこないのかな
と思つていたらリームから数千人は食い殺しているとの情報を貰う。
思わず絶句して天を仰ぐと、リームからはその表情が一番好きですと
いう全く嬉しくない言葉を頂いた。こいつらの感性というか、常識と
か知識はどこから来ているんだ。

……怖い部分もあるけど、まあ俺を殺せる存在が2人から3人に増
えたところでもう何も変わらないだろ。スライム娘のスーラはリーム
と一緒に胸が大きいし、ひんやりとしてそだだからこれから季節
抱き着いたら気持ちよさそうだ。

第7話 火曜限定ガチャ

部屋の隅でガクブルと震えているスーラに近寄ると、ガバッと水色の粘液が眼前に広がる。

「ご主人様あ！」

「うわああああ！」

避ける暇もなく、押し倒されるとかこれ絶対エッチなパターンになるやつですね。さつき俺が精液を絞り出されてなければの話だけど。

「あ、あれ？ おつきくならない？」

「旦那様に何をしているのでしょうか？」

「蒸発させますよ？」

「ピイ!? な、何で世界は私に冷たいの？ せっかくのご主人様の傍に、ショゴスロードがいるじやん……」

そして俺を押し倒したスーラを挟むようにリームとマルエルが詰め寄る。2人とも、道端に落ちてている糞を見るかのような目なんだけど、スライム娘ってそんなにこいつらの世界じゃ地位が低いの？

というかショゴスロードって何？ ショゴスならクトウルフ神話のモンスターって何となくわかるけど、ロードってことはその上位種？ そんなのいるの？

リームという名前から、魔王の娘とかサキュバス的な存在だと思つていたからびっくりだよ。……まあ舌が可変式だつた時点でそういう不定形な存在である可能性はあると思つていたけど。

……うん、ただのスライム娘から見たらショゴスロードも力天使もヤベー存在なのか。にしてもこの粘液、ひんやりしているから寝具には丁度良いな。めっちゃ弾力あるし。

「あの旦那様……私がショゴスロードだと聞いて何も思わないんですか？」

「いやまあ俺の頭の中では運命の女神×魔王の娘やサキュバス×ショゴスロードだから」

「運命の女神？」

「……リーム・ヴエルザンディだろ？ ヴエルザンディって運命の女神

じゃなかつたか?」

「ああ、私が食べた女神ですか」

「あれ待つてショゴスロードってそんなに強いの!?」

マルエルとは違つてリームはどういう存在なのかマイマイチ掴みきれてなかつたから、スーラがもたらしてくれた情報はとても大きい。その情報を活かす機会はないけど。ちょっとネットで調べたら、ただの化け物じやんショゴスロード。

……さて。ここまで3人ガチャで引いてしまつたけど、全員が俺に對して謎の好意を持つているのは確認出来た。全員が人外であり、戦闘力が高そうなことも共通点だろう。

昼ご飯のためにマグロを取り出したら、一番弱そうなスーラがバツと広がつて丸呑みにし、一瞬で溶かし切つたからな。あれは人間相手でも同じことが出来るだろうし、マグロが一瞬で消化されたのは完全に恐怖映像だつたわ。

「ナオヤ。あー」

「……はい」

「あーー! マルエルだけずるいです! 私にもやつて下さい!」

マルエルが口を大きく開けてあーんを強請つたので、マグロの刺し身を突つ込むと美味しそうに食べる。醤油も何も付けてないのに美味しく食べるのか。こうしている様子だけ見ていると、マルエルは完全にただの幼女だな。

なおずつと、俺の隣でふわふわと浮いている模様。世の物理学者に真っ向から喧嘩売つてる存在だな。この浮力を解析出来たら地球の技術は3段階ぐらい先に進みそう。

「んーー! 旦那様にあーんされるとそれだけで50倍美味しく食べられます」

「……なあ、俺とお前らつてどこかで会つたか? それを俺が忘れているだけか?」

「流石は旦那様。この状況でも気にしなくて良い事を気にして損する性格は変わりませんね」

「じゃあやつぱり」

「違います。もしそうであれば、最初から説明をしていますよ。例え
ば旦那様が異世界を救つた勇者だつたとして、それなら話さない理由
がありません。まあ、近しい答えなのでもう私からは何も言えません
けど」

「ナオヤ、鋭いからそれ以上はダメ」

クトゥルフ神話が出てきたことで、一気に俺の置かれている状況が
胡散臭くなつてきただ。これ俺のS A N 値0になつてないよな？ここ
に来て現状考察ランギングに廃人の見てる夢がランクインしてくる
の本当に止めてくれ。

リームとマルエルの2人に詳しい事を聞いた時ははぐらかされ、今
もちやんとしたことは聞けていない。次にスーラの方に視線を向け
ると、スーラは髪の毛から生えている水色の触手をぶんぶん振り回し
ながら喋る。

「私はゞ主人様のためならお答えするのも出来ますが……出来ます
がぁ！」

俺が聞こうとした瞬間に、スーラに対してリームとマルエルがスー
ラの両端から詰め寄り、ジト目で睨む。当然スーラは涙目になつた。
涙腺とかないだろうから、そういう演技なんだろうけど器用なことす
るなあ。しかし上位種族2人に睨まれるつて、どんな気持ちなんだろ
う。

結局、答えは見つからなかつたけど一步前には進んだ気がする。こ
れ、数が増えればいづれ全容が見えて来そうだな。俺への呼び名が全
員違うのも気になるし。……スーラとはこれ、完全な主従関係だつた
のかな。もう間違いなく、彼女らは全員異世界の住人だよね。そして
幻覚とか夢とかそういうのではない限り、彼女らとは何らかの関わり
が俺はある。

記憶を失つてはいるとか、時間が巻き戻つて彼女達だけが知つてはいる
状態とか、はたまた別次元の俺が為した功績が俺の功績になつてはいる
とか……まあまだ可能性は色々とあるけど、かなり絞り込めた。あと
はいざれわかるだろう。

翌日になつて、バイト先から給与明細が届く。毎月20日、バイト終わりに貰うものだけど、もう退職したからか既にポストに入つており、今月分は14万4千円だ。時給1000円が1日8時間で、出勤日数が18日。ここから税金だの年金だの諸々を引かれて、手元には10万ちょっとしか残らない。……これが最後の稼ぎにならなくて良かつたな。

火曜日となり、火曜限定ガチャが回せるようになつたので当然回す。庭に置かれている透明のオブジェが怖すぎて今の俺の頭には戦力増強についてのことしかないわ。あれ絶対この前当てたムーンゲートだろ。満月の時だけ異世界とこの世界をつなぐとか、嫌な予感しかしない。

来週の今頃には、この世界にはいないかもしれないなど自嘲しながら曜日ガチャを引くと、火曜日は外れ枠が力の種になつており、火曜日ただけあつて火力的な意味合いが強いガチャだつた。

S R : ワルサー P P K

R : 力の種 10 個

R : 力の種 10 個

R : よく切れるナイフ

R : ガスバーナー

R : 力の種 10 個

R : IH クッキングヒーター

R : 力の種 10 個

R : 攻撃の呪印

S R : 手榴弾 10 個

地味に IH クッキングヒーターとガスバーナーは嬉しい。たまに自炊はしていたけど、頻度は低かつたからガスバーナーとか欲しいと思つても手を出せなかつたんだよな。IH クッキングヒーターとガスバーナーだけで 3000 円分の価値あるわ。

……ワルサー P P K はもう当たつてたから何も言うまい。手榴弾とか良く切れるナイフとか、もうこれ完全に戦闘用だよね。とりあえず全部倉庫に送つて、力の種は少しづつ食べていこう。

今日はどうしようかなと思つていたら、スーラが椅子に座つてゐる俺の足元に抱き着いてくる。美少女の体内に足が埋まつてゐるつて、冷静に考えたら凄い光景だな。

「あの……抱いてください。2人が外に出たのも、そういう理由だと思ひます」

ズボンの隙間から、足を伝つて入り込んだスーラは、竿全体をギュッと掴む。ヒンヤリとして弾力に富んだスライムが纏わりつくと、これだけで非常に心地が良い。

1日経つて回復したし、断る理由も俺はないのでスーラの提案に肯定するとスーラーは顔を綻ばせ、身体が若干溶けた。……スライム娘つて、現実で見るとちょっと怖いな。既に食事で大きな肉とかを一瞬でジュワ～っと溶かしているし、その気になれば一瞬で俺を溶かせる粘体異生物と交わるつてだけで興奮よりも恐怖が先に来る。

でも俺の好みに合わせて胸を大きくするため、一時的に水道から水を出し胸を大きくしていくスーラを見て、その不安は抱かないようにならうと思つた。リームやマルエルは初日すぐに交わつていたけど、スーラは2日目になつたし……。まだ一緒に過ごしたのは1日だけだけど、健気な頑張り屋っぽい性格はしているので、リームやマルエルとするより安心も出来る。

第8話 スライム娘

スーラと一緒にベッドの上に座るけど、身体のほとんどが水分で出来てそうなスーラはベッドに染み込んでいつたりはしない。まあ感触は硬いゼリーの時もあれば柔らかくて粘つく粘液にみたいな触感にもなれるみたいだし、色々と可変式。

「……そういえば中に出しても大丈夫なの？ 子供とか出来ない？」
「作ろうと思えば作れますけど、私は精液でも何でも体内に入れれば吸収できます」

水道水で膨張したのか、バレーボールの大きさほどあるおっぱい。つんつんとしてみると最初は弾力性がかなりあって硬かつたけど、途中でずつぱりとスーラの中に指が入る。

透き通っていて、非常にエロいのは間違いない。……どうせならスライム娘にしか出来ないプレイをお願いしてみようかな。
「おっぱいを大きくして、乳首に穴を作れる？」

「えーと？」「うですか？」

「良い感じ。あとはその穴をおまんこと同じにとか出来る？」

「それはもちろん。私の身体はどこから挿入しても、気持ち良くなれると思いますよ」

スーラは乳首の穴を大きく広げると、そこから粘度の薄い液体をダラダラと垂れさせる。どこの穴からでもおまんこを作り出せるとのことなので、せつかくなら紙媒体の上でしか見られなかつた乳首への挿入、というものをしてみたかった。

「じゃあ挿れるぞ」

「はい、きて下さい」

「……うあ、柔らけえ」

「んっ、なんか、変な気分です」

ぱっくりと乳首が開き、亀頭を飲み込む光景は異様だつた。小さくて細い触手が乳首の穴から出てきて亀頭やカリ首に纏わりつき、中へ引っ張ろうとする。やがて乳首に男性器が丸々飲み込まれ、中で弄ばれた。スーラはただ乳首の中に集中するだけではなく、両手を使いた

ぽたぽと乳房を上下させ、その動きで中のチンコを刺激してくる。

またスーラの身体の中にある赤い球が鈴口に張り付き、違った弾力性で気持ち良くさせる。いやこれ核とかそういうのじゃないの？これに精液ぶつかかっても子供とか出来ないの？

「これ、核とかそういうの？」

「はい。厳密に言えば核じゃないんですけど、似たようなものです」
ずつちゅずつちゅと腰を動かすと、普通では味わえないスライム独特の柔らかさにぬるぬる感のせいであつという間に射精欲が高まり、尋常じやない量の精液を胸奥に吐き出す。うわ、透明だから精液が透けて見える。

スーラに動きを止めて貰つて、ガツチガチのままの一物を引き抜くと、抜いた後にはぽつかりと穴が空いた。抉られたように穴がある乳首に、そこから流れ出る白い精液。おそらく「精液が垂れるところを見せた方が俺は興奮する」とスーラは判断して消化してないな。どこまで至れり尽くせりなんだ。

「（ご）主人様つて本当におっぱいが好きですよね。

次はパイズリしますけど、好きな大きさに出来ますよ？ロリ巨乳とかになります？」

「いや、今まで良いよ」

ニプルファックが終わつた後は、おっぱいを元に戻してのパイズリをして貰う。スライムだからローション要らず、手間いらずだ。一々精液を掃除する必要がないし、存在が便利過ぎる。

「んー、こうですよね？」

「うん、ぷるぷるしてて気持ち良いな」

「でも、射精しませんね？」

「まあ、刺激は足りないけど……」

「じゃあ、お口を作ります！」

たわわなスーラの胸の谷間に、下から挿入する。むにゅ、つとスライム特有の弾力に圧し潰され、心地良い快楽だ。しかし先ほどとは違う、長時間射精を我慢しているとスーラが胸の谷間に口を作る。

「んひい！？」

「これ、リームさんとマルエルさんの口です。昨日ちょっと齧られた時に、口内を覚えました」

「あつーやば」

全身が透けて見えるためにわかるのだが、スーラの胸と胸が接している部分に2つの口が出来た。向かい合うように出来た2つの口は、片方が舌の長さからリームだとわかり、もう一方は小さいからマルエルの口なのだろう。

ペロペロと、まるで本人が舐めているかのような舌触りで竿を舐めてくるスーラ。ぎゅっと胸を抱き締めて、おちんちんを引き抜くのも簡単には許してくれそうにない。技巧こそ劣るが、スライムにしか出来ないプレイであり、とぷとぷと精液が流れ出る。その精液は胸の上部へと送られ、改めてスーラがそれを舐めとる。

精液を扇情的な表情で舐めるスーラは、外見的には高校生ぐらいだからちよつと犯罪的な光景でもある。……足裏とか後頭部からでも突っ込めるのは、色んなプレイが出来そう。最後は膝枕して貰いながら、騎乗位をして貰う。

「断面図が出来るの良いなあ……あと分裂も」

「体温もある程度調整出来るので、暑かつたり寒かつたりしたら言って下さい」

顔以外をほぼスーラに包まれた状態で、大きな胸を揺らしながら腰を上下させるスーラ。ちなみに腰を動かさなくとも、中をうねらせても全く同じ刺激を与えることが出来る模様。これから暑くなつていく季節。ヒンヤリしているスーラの身体の中はすぐに眠気が襲つて来るし、こうやつて気持ち良いまま夜は寝たいな。

「んつ、あん…はあ、はあ…ふあつ！…あつ…あああんつ！」

膝枕している方のスーラとは普通に会話出来ているけど、騎乗位で腰を振っている方のスーラは喘ぎ声が出ている。最初は喘ぎ声が俺を喜ばせるための演技っぽかつたので、腕をスーラの中に突つ込んで赤い核みいたいものを亀頭にグリグリ押し当てたら顔の輪郭が若干溶け、恍惚とした表情で腰を振り続けている。

「……自分がこんなに乱れている姿を直視するのは恥ずかしいです」

「どつちも自分って、どういう感覺なの？視界とか」

「共有はしていますよ。なのでご主人様の顔を上からも下からも見て
いる状態です」

若干オナホっぽさも感じながら、核に押し付けて射精すると先っぽが核の中に入つてびゅるびゅる精液が出る。核の中もスライムのような感触なんだけど、より粘度が濃いのかな？……さつきから精液の量が異常だけど、凄いな精力の種。一回の射精の精液の量も回数も増えているから、もう自分で怖くなるほど白濁液が出ている。

俺がイッたと同時に、エビぞりになつておっぱいを突き出し嬌声を上げたスーラは、ドロドロに溶けて膝枕しているスーラと交ざる。賢者タイムの時にこういう人外ムードされると心臓に悪い。気持ち良かつたけど。これ以上ないぐらいに満足感高かつたけど。

そして行為が終わつた後は、スーラの粘液に全身を洗つて貰う。老廃物とか埃とかゴミとか、全部ジユツと綺麗に消化出来るようだけど、凄いなこれ。お風呂に入らなくても身体サッパリだ。絵面が完全にスライムに捕食されている構図なのは気にしたらダメだろうな。もう完全にスーラに丸呑みにされている状態だし、下手に動いたらジユツと溶かされそう。

……ん？

「……これリームも出来ると思う？」

「え、はい。リーム様はショゴスロードなので、ただのスライムの私が出来ることは何でもできると思いますよ」

「気絶した後にサッパリしていたの、リームの身体に呑み込まれてい
たからか……」

そう言えば今までのサッパリ感も、スーラに綺麗にして貰つた時と同じ感じだなと思い出し、スーラにリームが同じことを出来るか確認したらあつさり肯定の返事が返つて来る。リームがスーラのことを若干鬱陶しがつてているのは、同族嫌惡的なものなのかも知れない。

身体を洗つて貰つた後は、スーラから分離して球体状のスライムの中に入つていた服を取り出して着る。うん、洗濯もしてくれるとか色々と凄いな。何故か温かくて乾いているし、わりとスライムつて

万能だ。

「……そういえばリームやマルエルに齧られたって聞いたけど、何で齧られたの？」

「スライムは非常食にとても有用ですよと言つて食べてもらつたんです」

「ええ……お腹壊さない？」

「栄養満点のゼリーなので大丈夫ですよ?ご主人様も食べます?」

「いや、さつきまでセックスしていた相手の身体を食べる趣味はないから……」

非常食にもなれるようだけど、さつきまで交わっていた生物を食べるとかちよつと人間の感性では無理だわ。しかし強引にスーラに勧められて、ちよつとだけ齧ると蜂蜜のような味がする甘いゼリーだつた。……原材料は水だけのようなので、ここでも錬金術起きてるな。ネットで売つたら人気でそう。

第9話 水曜限定ガチャ

スーラとのイチャイチャが終わると、見ていたかのようなタイミングでリームとマルエルが帰つて来た。どうやら4人に増えたことで色々と買わないといけないものも増えたらしく、これからも増えることを考えると現金もたくさん持つていた方が良いということで10億ほど入つた俺の名前の通帳をポンと渡される。

……ほわい？

「え、何でこんな大金になつてるので？」

「密林株は1株3000ドルほどで、今までに当たった密林株は1000株ほど。これだけで300万ドルなので、日本円で3億3000万円ですよ？」

あと、貴金属の類は命令通り全て売り払つて来ました」

リームが10億円の内訳を細かく伝えてくれるけど、あまりに現実離れした金額に震えが止まらない。いやこれ本当に夢じやないんだよな？ 急に日本がハイパーインフレを起こしたとかそういう可能性もないんだよな？

もう異常なことが起きすぎていて、今見ている光景が現実かどうかが疑わしくなつてくる。しかしあ、10億か。何でも出来そうな気がする金額だし、一生遊んで暮らせる額のお金だろう。このまま引き籠つて一生ゲームに興じることも出来るが、いざそれが出来るとなると喜ばしいような、寂しいような。

とりあえずはムーンゲートの先が異世界だった時のため、あとは長生きするために運動を始めるか。力の種とか守りの種とかドーピングはしているけど、身体は動かした方が良いだろう。そこで最寄りの1日利用1000円というスポーツジムに行こうとして、お金があることに気付き、月額制のスポーツジムの方へ行く。お金持ちになつたんだつたな俺。

ちよつとお高めの月額料金を払うも、財布は痛まないしジム内は空間が広い上、人が少ない。まあ平日だし、サラリーマンとかが居ないから空いているのは当たり前か。

そこで試しに10キロと書いてある重りを持つと、まるで綿を持っているかのような感覚。あ、はい。これベンチプレスの世界最高記録の500kgとか紙切れを持つようなものだわ。

別に本格的に筋トレをしていたわけじゃないけど、今までのベンチプレスの最高記録は高校の時に試しにやつてみて出来た35kg。しかし40kgは持ち上がらなかつたはずなのに、今100kgを持ち上げてみるとめっちゃ軽い。ドーピング凄いな。

……これ、異世界でも普通にやつていけるんじやね？いやあのムーンゲートに繋がっているのがなろう的異世界とは限らないし、一般人が1トンのトラックを片手で受け止め投げ返せるような異世界だったらお手上げだけど。

あのムーンゲートが、どこに繋がっているかは分からぬけど異世界であることは確実だ。リームやスーラの存在自体が、異世界があるという何よりの証拠だしな。

一通り軽く運動して汗を流そぐとすると、激しく運動しないと汗が出ない不具合も起ころる。全力疾走で10キロぐらい走り切らないと汗が出るほど疲れないってマジ？なのにリームやマルエルとのセツクスでは氣絶するぐらいに疲れるってマジ？やっぱり生氣とか精気を吸い取るサキュバスなんじやないの？

20キロを40分ぐらいで走り切ると、ジムのトレーナー達からあいつヤバイぞ的な目線で見られるけど無視。ベンチプレス以外にも色々と器具を触ったけど、たぶん全身が強化されているなど判断できたので帰宅。心肺能力ですら向上してるつて凄く怖い。

「ただいまー」

「おかえりなさいませ、旦那様。

今日は良い猪肉が手に入つたので唐揚げにしますよ

「へえ、どこで買ったの？」

「山を歩いていたらこの猪が生贊を志願してきたので

「どこの山に行つてたんだよ……」

家に戻つて、ただいまと言ふとおかえりなさいと言つてくれる人がいるのはちょっと嬉しい。ついでに言うと何もしなくともご飯が出

て来る環境というのがとても嬉しい。料理は基本美味しいし、完璧召使であるのは間違いない。

ちょっと身体を動かし、美味しいご飯を食べ、スライム風呂に入つて射精し、夜は気絶するまでリームやマルエルにご奉仕される。このサイクル、延々と続けられそうだな。ヤバイな、このまま思考停止したいわ。

「あはあああ……あひや……あん！」

「うわあ、幼女がしちゃいけない顔してる」

「旦那様も、かなり慣れてきましたね？」

「さつきもスーラとやつてたし……。

あー……射精してる間の気もち良さはやっぱり前の方が良いな

「子供が出来たらどうします？」

「え、子供出来るの？」

幼女形態のマルエルの腰を持ち、騎乗位の体制でマルエルを上下にすると最初はこっちが攻める形になつたけど、やっぱり途中からマルエルが射精中もギュッと抱き着き腰だけグリグリ動かしてくるので攻められる形になる。幼女に負ける成人男性の図である。

そして目的もなく水曜日を迎『嫁ガチャ!』のアプリが始まつて今日で7日目となる。結局ネットのどこにもこのアプリに関する情報はなかつたし、周囲の誰も知らなかつた。

ということは、俺のスマホにだけ存在しているアプリの可能性は高くなつたけど……。ここまで来ると最悪を想定したくなるのが俺の性。以降はひたすら、このアプリの存在を隠しておこうか。

アプリ開始日から7日目となるが、このアプリにログインボーナスとかはないのでSSR確定チケットとかは配布されなかつた。まあこれだけの資産があれば、ガチャはずつと回せるけど。ガチャを回せば回すだけ、ガチャを回せる回数が増えるけど。

ただこれ以上女の子が増えるのも、物や資産が増えるのにも興味はぶつちやけ無い。ガチャを延々と引くという作業はぶつちやけ苦痛。URどころかSSRも中々でないし、SRですら0・9%だからドー

ピングが無かつたら腱鞘炎になつてたと思う。

とりあえず水曜限定ガチャだけ回すけど、案の定守りの種とかそういうのが多いのかな？初つ端から守りの種3連続は、ちょっと気分が下がる。

R：守りの種10個

R：守りの種10個

R：守りの種10個

R：日本酒（純米大吟醸）

R：スライムボール

R：ベビー・パウダー

R：ローション

R：守りの種10個

R：守護の呪印

S S R：雨乞いの杖

ボタンをポチポチ押していき、最後に当たつたものを見て下がつた
やる気は回復した。雨乞いの杖つて凄いな。こんなのも当たるのか。
試しに手に持つてブンブン振り回すと、扱い方を間違つていたのか
リームに苦笑されたので正しい扱い方を教えてもらつた。

とりあえず庭に出て、雨乞いの杖を持ち上げて、雨よ降れと心の中で願う。すると、本当にすぐに雨が降り始め、10分も経たない内に本降りとなつた。……異世界のアイテムえげつねえ。この雨乞いの杖、農家とかにあつたら凄く助かるんじやないか？他にも天候を変えられる杖があるなら、色々と悪用も考えられる。夏の日に雪を降らせたりすることも出来るかもな。

急激な雨は、1時間ほど降り続けて止んだ。今日は最高気温が25°Cを超える暑い日だから、雨が降るタイミングとしてはちょうど良かつた。めっちゃ涼しくなつたし。……どう考えても降つて良い雨じゃなかつたけど。世間ではこの程度の通り雨、特に騒がれない気がする。まあ、気象に関わるお仕事をする人達の間では騒がれるだろうけど。

ちよつと時間がある時とかは、ガチャをひたすら回すようとする

か。世界を改変出来るアイテムが出て来たわけだし、他にも凄まじい効能のあるアイテムを引けるかもしれない。これ以上集めてどうするんだって感じだけど、ここに来てちょっと欲が出て来た。

古今東西、こういう場面で欲を出した人間は大抵不幸な目に合うんだけど……まあ大丈夫だろう。それにアルバイトする時間が空白になつたことで、手持ち無沙汰になつた感覚はある。当面の間は、来週の火曜日に開通するムーンゲートに備えることにしようか。現時点

で、一番の不確定要素だしな。

第10話 ムーンゲート

ダラダラとゲームをしたりセツクスをしたり、テレビを見たり性行為をしたり、運動したり同衾したりして1週間を過ごしていると、4月26日の夜を迎えた。明日にはムーンゲートが開通するが、日本時間で4月27日の0時から24時まで開通するらしい。

若干のワクワク感を隠さないでいると、日付が変わり、黒い門が現れる。漆黒の大きな扉で、観音開きかな？ムーンゲートと言う割には真四角の外観で、裏側は完全に真っ平らである。満月の時だけ開通するリームに説明されたけど、実際には満月の日だけ現れるって感じか。

開閉も俺が念じないと出来ないと出来ないので、いきなり向こうの異世界のヤバイモンスター達が流れ込んで来ることはない。ということは開けなくても良いんだけど、開けたくなるのが人間の性。自堕落な生活とか1週間で飽きたわ。

ただ、不安と言えばこのムーンゲートがどこに繋がっているのか分からぬことだ。開けた途端に有毒ガスが溢れて来る可能性すらあるため、先頭はリームに任せた。この1週間でクトゥルフ神話の知識はある程度付けたので、このリームの種族であるショゴスロードが非常にヤバイ種族であるという認識は出来ている。

前から2番目はマルエルで、3番目に俺。最後尾はスーラというフォーメーション。好奇心で箱を開けたパンドーラーの気持ちが非常によく分かるわ。出て来るのがヤバイものでもすぐに閉じれば大丈夫だろうと考えているところはそつくりだな。

……気持ちを落ち着けて、ムーンゲートに開くよう念じるとゆつくりと扉が開いて行き、煙のようなものが扉の上下から溢れる。有毒ガスかと思つて酸素ボンベを装着するが、先頭のリームは特に酸素ボンベ等を装着する素振りがない。

「この空気は……マルエルの故郷かもしませんね」

「マルエルの故郷？」

いやそれ天国じゃん」

「いえ、世界番号189EDN、通称エデンです」

「……数字はまだ理解出来るけど、なんで世界番号にアルファベットが使用されてるの？」

「アルファベットの大元を辿れば別世界の文字に辿り着きますよ？」

「最近SAN値が減ってるからそういう話はNG」

そしてムーンゲートが完全に開いた時、視界に入つたのは雲のような地面だつた。酸素濃度計で酸素を測定すると、20%前後で安定していた上、気圧差もほとんど無い。リームとマルエルが先に中に入つて安全を保障してくれたので俺も異世界への一步を踏み出す。なんとも締まらない異世界転移だな。

「……雲っぽい材質の地面だ。跳ねないけど」

「一々跳ねてたら不便じやないですか。」

スーラも早く入つて来て下さい」

「お、落ちない？」
「落ちないですよ。」

旦那様のお手を煩わせないでください」

地面は真っ白で、雲の上と表現できそうだけど強く蹴つても跳ねないし手で一部を採取しようとすると硬くて壊せない。遠くには神殿のような建物があり、その上には天使のような生き物が遙か上空を飛んでいることが分かる。

……あれ、想像していた異世界とは違うんだけど。

「この世界にリームより強い存在はいそう？」

「この世界の主神が相手だと勝率が100%から99%に落ちてしまします」

「……ほほいないと考えて良いのか」

リームと現状確認をしていたら、マルエルが服を引っ張つて神殿の上空を指差す。その方角から何かが来ていると思つたら、天使だつた。その天使はこちらに来て、ゆっくりと下降して俺の目の前に降り立つ。比喩表現ではない。マジの天使だ。マルエルのような羽が生えており、かなりの美女。

……あ、マルエルがリームの影に隠れている。ということはマルエ

ルはこの天使と顔を合わせると不味いということ? マルエルって力天使だから、それなりに地位は上かと思つたんだけど。

「生身のお客様は珍しいと思つたら、ムーンゲートでの来訪者でしたか。

そちらがよろしければご案内を……どこを見ているんです?」

「その服どうなつてるの?」

「……低俗な人間ですね。傍にいるのは最下級モンスターのスライムですか。ハツ」

その天使は外見的には16歳の金髪美少女つて感じだつたんだけど、衣装が乳首だけを隠すようなひらひらのワンピースのみ。しかも巨乳で横乳も谷間も見せつけているとか誘つているとしか思えない。俺の視線に気付いた天使は、持つていた槍を俺に向けて構える。あ、それは不味いと思つた瞬間、リームの腕が伸びて槍を呑み込んだ。その行動に驚くも、次いで何かを懷から取り出そうとする天使は、マルエルに急接近して殴られ、数メートルほどぶつ飛ぶ。いや、故郷の同族をいきなりぶつ飛ばして良いのかよ。

「ナオヤ、犯そう」

「いやいや待て待て待て。俺はこの世界を観光するつもりで来たわけだし、いきなり案内してくれそうな人がやつて来たのに即敵対するとか」

「天使を性的な目で見るのは、この世界だと最も失礼な行為ですよ?」「それは早く教えて欲しかった」

マルエルのワンパンで、地面に横たわる天使。ワンピースは破れ、大きなピンク色の突起が丸出しになつていて。……これを犯したら、間違いなく来世は地獄行きだろうな。

「敵対した時点でアウトでしょう。せつかくなら犯してみては?」

「……ええ」

完全に気絶しているし、周囲には誰もいない。もう敵対してしまつたということなら、ヤバイことだと分かつていながらもついその大きな胸を揉んでしまう。誘うように上下していたししようがないね。お、この子のおっぱいは張りがあつて若干硬めだ。乳首とかめつちや

コリコリしてる。

「うん？ひつ！？」

「スーラ、拘束。口元抑えといて」

「はーい。最下級モンスターの低俗なスライムのゼリー、いっぱい飲んでね？」

そして案の定、途中で起きてしまい、俺を見て悲鳴を上げる天使だけどスーラがスライムの触手を天使の口の中に突っ込む。さあこうなつてくるともう後戻りは出来なくなつたぞ。こうなつたら、行くところまで行こうか。

「んー！！んんんー！！」

「天使の服つて防御力高そうなのに簡単に破けるな。

うわこれでノーブラとか性的な目で見ないのなんて不可能だよ」

ワンピースを力に任せてビリビリに引き裂くと青い顔をしてブンブン顔を横に振る天使だけど、ここまで嫌がられると逆にそそるわ。天使の前で中指を突き立て、その中指で小さいおまんこに入れると、最初は濡れてなかつたけど天使が涙を流す度に下のお口からも涙を流し始める。

「ごめんね。この後熾天使とか智天使とかが登場して俺が裁かれる展開になつたとしても、ここで止めた方が後悔しそうだし最後までやるわ」!!!

「んー！！！」

四肢も拘束され、一切の抵抗が出来ない状態の名前も知らない天使に対し、挿入をしようとすると途中に明らかに抵抗があるけど、これが処女膜か？

……そういえばリームもスーラも不定形種族だし、処女膜なんてないわな。マルエルは……気にしないでおこう。マルエルの初めての相手が俺だということは聞いているし。天使は嘘を付けないようなので一応信じる。

「えい」

強引に突き刺すと、ビクンと跳ね上がる名無し天使の身体。快樂で

の身じろぎではなく、痛みでの身じろぎだろう。何度も奥を突くとの度に涙を流す天使だが、身体の方は愛液があふれ出て来るほどであり、マルエルほどの締め付けではないがギュッギュと良い締め付けをしてくる。

スーラの触手は胃に届いたようで、何度も吐きそうになつてている天使に対し、正直可哀想な気持ちも湧いて来たが、きつちり中出しは決める。マルエル相手だと子供が出来る可能性を示唆されたし、天使と人間の間なら子供は出来そうな気がするから、もしかしたらこの天使はママになるかもな。

「ふう。

……なあ、この状況つて凄く不味い？元の世界に戻つた方が良い？」

「バレなければ問題ないでしよう。しばらくこの天使は私の身体の中に収納しておきます。

もし旦那様が追加で犯したくなつたら、下半身だけ出してあげますよ」

最後にリームが腕を大きく膨張させ、絶望顔で氣絶している天使を手でしつかり握りしめたと思つたら、次の瞬間にはリームの腕が元に戻つて天使の存在が無くなる。うわ怖い。しかしこれで、証拠隠滅完了だな。

第11話 観光

最初の天使に会つてからおよそ10分ぐらいが経過した頃。とりあえず神殿に向かつて歩いていると、2人組の天使と出会う。彼女らも薄いひらひらのワンピースを着ているが、スッキリして賢者タイムに入つていた俺に対しては効果が薄かつた。

胸もさつきの子と比べたら小さいし、何よりこれ以上天使が消えたら不味そうというか若干胃が痛くなつてきたよ。さつきと同じような流れで、しかし今度は天界の案内をして貰うことに。

「地上に住む生身の人間にとつては信じ難い光景でしようが、ここでは天使が社会生活を営んでいます。結構色んな天使がいるんですね？」

「へー」

スーラは丸型になり、完全にただのスライムに擬態し、リームは元々メイド姿のためヤバイ存在には見え辛い。マルエルは透明になつたみたいで、俺の視界内にはいないけど、時々飛ぶのを止めて俺の背中に張り付いている。幼女の高い体温がダイレクトに来るからマルエルは分かり易いな。

天使達に「俺達はムーニングートから来たから1日間だけ観光する」と伝えると、神殿を避けるように遠回りして、神殿の向こう側にあつた天使達の街を案内してくれたが、何故か街並みは中世ヨーロッパなのに全員スマホを弄つてているという状況。天使達が持つてているの、iPhoneだな。世界観ぶち壊すアイテム使うのは止めてくれません？

「いやこれ凄く便利ですよ？遠く離れていてもメッセージを送り合えますし、スケジュール管理にはもう欠かせません。それに今だつてこうやつて会話出来てるのは、このスマホの翻訳アプリのお蔭です」「あ、そうなのかな。

……魔法の概念をスマホに組み込む？魔法が使えるスマホって、えげつないぐらいに便利そうだな」

魔法の概念と言えば、まあ『嫁ガチャ！』も魔法の概念が組み込ま

れているな。ガチャで引いたのが現実に登場した時は驚いたけど、そういう転移魔法があるとなると話は変わつて来る。いやでも土地とか家が置き換わったのはまだ説明できないわ。人間の記憶にも作用しているし、世界を上書きとか言つてたからまた別の話かな……。

もう確実に、この現象を引き起こしている黒幕というか、そういう存在が「いる」と確信しておいた方が良いとは思う。目的とかさつぱり分からないし、考える時間が無駄に思えて来たけど。とりあえず今は、与えられるものありがたく受け取つて、楽しんでいたら良いんじゃないだろうか。そうしろと言つてるようなものだし。

「そういうえばこういう天使達の街でも風俗みたいな店つてあるの？」
「旦那様は馬鹿なんですか？天使を性的な目で見るような存在はここには普通、来ることが出来ないんですよ」

「ええ、じゃあ性欲とかどうしてるんだ」

「普通の天使はありません。そもそも、姦淫の禁を破れば墮天するのが通常です」

「ほー、墮天するんだ。

……あれ？」

前を進む天使達に聞かれないよう、リームに天使の街には風俗みたいな店があるのか確認してみたらさらりと馬鹿にされた。いや俺みたいな存在が来ることもあるし、そういう店があるかもしけないと期待したつて良いじやん。

そして天使は犯されると墮天使になるという話を聞き、悪い考えを思いついてしまつたのと同時に、マルエルが墮天使になつていののはおかしいんじやないかと気づく。

というか現れていきなり自分を犯してくれと洗脳しようとする天使が存在してたまるか。どこかがおかしいのは確実だろう。そもそも、リームやマルエルは常識で推し量れるような存在であるのかすら疑問だし。

あれ、じゃアリームの腕の中にいる天使は……。

「墮天使になつていますね。既に羽が半分黒いです」

「うわあ。めっちゃ可哀想になつて來たんだけど、解放とか出来る？」

「解放したら天界全体が敵対して旦那様が殺されるので却下です」

「……お持ち帰りするしかないじゃん」

……元の世界に戻つて、ムーンゲートを閉じてから解放するしかないな。いやこうなつたら自宅で監禁とか調教とか、そつちの方が良いかもしけない。元の世界に犯した天使の戸籍とかないだろうし、家宅捜索とかも俺が問題行動を起こさなければされないだろう。

天使達の住む街並みを歩いていると、通貨がないことに気付く。何ここ性欲物欲金銭欲その他諸々の欲を抱いたらダメなの？地獄じやん。そして人間は俺以外におらず、たまに空中を漂っている無表情の人間が天使に拘束され神殿に連れて行かれるのを見る。うんまあ何となく流れは読めたわ。

要するに死後の人間の魂か靈体かは知らないが、そういう存在は神殿に連れて行かれるんだな。生きている人間は本当に珍しいらしく、天使達からの注目も集める。……女性の天使は美人か美少女しかいなかからまだ良いけど、イケメンがこつち向いて来るの勘弁してくれないかな。

「両性具有の天使とかいる？」

「いたらどうするつもりですか？」

「……んー、可愛かつたら持ち帰る」

「どんどん思考が外道かつ強欲になっていますね。そんな旦那様も好きですが」

ふたなり美少女天使とか実在するのかなと探しながら、この世界の食べ物というか名産として勧められたりンゴを齧りながら、リームの解説を聞く。どうやらこの世界は元の世界と比較的近い位置にあるようで、異世界の中でもかなり距離の近い異世界だとか。

「なるほど、天国が一番近い異世界なのか。ということは、地獄もある？」

「まあ近しい世界はありますよ。死後、靈体となつた時に天界に行く人と地獄に行く人の割合は半々ぐらいですね」

「それって現世で良い事をしていたら来世は天国、悪いことをしていたら来世は地獄つて奴？」

「確率的には半々ですし、完全にランダムです。中には元の世界に留まる靈体もありますし」

……色々と聞いていると、何でリームはこんなに詳しいのという疑問が沸き上がるが我慢。知恵の実を食べたことで知能が上がったのかかもしれない。

結局ぐるりと回つて、たくさん手に入れたのはどこにでもある美味しいリングゴとエリクサー並みの回復力があるという天界の水だけ。天使以外に生き物がないし、神殿に近づこうとしたらマルエルに止められたので大した観光は出来なかつた。

最後にムーンゲートの場所まで戻ると、何か偉そうな羽の多い天使と、その部下らしき口りつ子天使が数名いる。あ、ヤバイ。これバレてる。

「そこの旅人、私は熾天使のウリエールだ。こちら辺りで警護班の天使が一人」

「GO」

かなり危険な空気を感じ取つたため、リームとマルエルに先制攻撃をお願いするとマルエルは槍を持ちだしウリエールと名乗る天使に攻撃をする。取り巻きの天使は、全員リームに食べられた。リームの戦闘力が高すぎて怖い。いつか俺も食べられる気がする。

「な!? マルエル殿が何故?」

しかも我々を裏切つたのに、墮天していない!?

そしてマルエルは槍を突き出したが、ウリエールの持つ槍で受け止められる。力関係はウリエール>マルエルっぽいな。階位が違うそうだし、不意討ちでもどうにもならないものはある。

……ウリエールさん、とてもおっぱいが大きいし所々黄金で装飾はされているけど基本は他の天使と変わらないひらひらワンピースとか色々と誘つてませんかね。と、ここでスーラが触手を伸ばして顔の下半分を覆う。あ、戦闘終わつた。

「……」

「あー、口を開いたら終わりだよ。口を開かなくとも鼻から侵入されるけど」

スー^ラは栄養満点のスライムゼリーを強引に食べさせてくるけど、これは栄養満点であると同時に媚薬というか、精力剤的な効果もある。さつきの天使もこれを大量に食べさせられてから、急激に愛液の量が増加していた気がするな。単純に窒息させることも出来るので、接近戦ではスー^ラも強い。

無事制圧出来たので、騒ぎになる前にムーンゲートを開いて撤収。当然、熾天使のウリエールも抱えての帰還である。持ち帰った天使はこれで合計で6人になるわけだけど、どう処理しようか。……とりあえず全員、堕天使になつて貰おうかな？

第12話　願望

「くつ、殺せ」

「え？ 殺して良いの？」

「えつ」

「えつ」

自宅に帰還後『嫁ガチャ！』の倉庫から地下牢を取り出して天使5人と墮天使1人をそれぞれ個別に牢屋へ入れる。既に犯された子は、まだ気絶しているな。熾天使と墮天した子以外の天使4人は全員美少女だけど、ガタガタと肩を震わせている。

そして牢屋に入れられた熾天使のウリエールは、こちらを睨みつけているけど四肢を拘束されている時点で怖さも半減である。

「……ところでさ、あの乳首に張り付けている奴って何を吸い上げてるの？」

「魔力と生命エネルギーですよ。

流石に熾天使は魔力量も生命エネルギーも桁違いでですね
その上、なんカリームが搾乳機みたいなものをウリエールに張り付けているから凄く不格好。巨乳を超えて、爆乳の頂点に張り付いている触手？がドクンドクンと波打っているのはちよつとエッチだけどあまり興奮はしないかな。

「ついでに母乳でも出せるようにしましようか？」

「ええ……。軽々しく人体改造とかしないで」

「スーラ相手に二プルファックはよくするのにですか？」

「それとこれとは話が別です」

勢いで天使を監禁してしまったわけだけど、ノープランなので何も考えていない。熾天使はリームがエネルギーを採取したいと言つているから放置するとして、他の天使を見ていたら最初に犯した子の目が覚めたので話しかけてみる。

「おーい、起きてるかー？」

「……うーん？ うん。あれ？」

「私、墮天しちゃつた！」

話しかけてみると、若干目の焦点が合つておらず、自身の黒い翼を見て墮天したことには驚く。そしてその後、あははははと笑い始めた。こつわ。SAN値が0にでもなったのかよ。

1分ぐらい墮天使は笑い続けた後、落ち着いたと思つたらギヨロリとこちらを見つめて来る。牢屋越しでもその視線に恐怖を感じていたら、何故かマルエルが墮天使の入っている牢屋の扉を開けて、俺の背中を押して入れる。えつ。

「姦淫の禁を破つた墮天使は性に溺れる。だから犯す」「はあ!」

扉が閉じられ、完全な密室となるが中にいるのはレイプした張本人とレイプされた超人的存在です。殺される未来しか見えないと思つたら、虚ろな目をしたまま俺を押し倒す墮天使。あれ、殺されない？殺意を向けられているはずなのに、間違いなくこの少女は俺に敵意を抱いているのに、何故か俺の服を脱がしていく墮天使。露わになつた肉棒に、黒いワンピースを着た墮天使は跨つた。ノーパンのため、綺麗な一本筋が裏筋をグリグリ押しているけど、何だこの状況。

あ、これから俺が犯されるのかと認識した時には、墮天使は根元を右手で掴んで強引に挿入を始めた。

「あ、はあ……ああっ、いやっ……！挿れないで……！」

「ええ……うわ、嫌がってるのに中はうねうねしていて気持ち良いな」

「いい!?あつ、あんつ……ああっ、やんつ！」

「つく!?やば……」

明らかにおまんこに対してチンコが大きいのに、騎乗位の体制のまま一気に奥まで引き込む墮天使。ズンと下半身に衝撃が来るが、少女だしこのぐらいだと心地良い重さと衝撃だ。

墮天使は自身の胸も曝け出し、揉み始めるけど手つきがいやらしいので思わず膣内で更にペニスを大きくする。おまんこを擦り付けるように、腰を使い前後にグラインドする姿は1日前まで処女だった少女だとはとても思えないな。

「はつ、はあつ、あつ、あんつ！……んんつ、ああつ……！」

こちらの射精と同時に達し、身体を仰け反らせ、若干息を荒げる墮

天使。ぱつん、ぱつんとリズミカルに腰を打ち付け、膣肉で締め上げてくる墮天使のおまんこは、ただ狭いだけのおまんことは違い、精液を根こそぎ搾り取ろうという気概が見られた。

ふう、と一息ついたら墮天使は両手で俺の肩を押さえつけ、腰振りを再開する。騎乗位だとこちらから攻める手段が乏しいため、とりあえず無防備に空いた墮天使のすべすべなお腹を撫でると膣内がキュンキュン締め付けて来るんだけど存在が工口過ぎないか？

「あっ、また、おつきくう……！」

ああ……あつ……ん、いやあ……あつ、ああつ!!

時々嫌そうな表情をするも、それでも快樂に溺れていく姿はまさに墮天使。これ、他の天使も犯して墮天使になつたらこうなるの？……なんかそれはそれでありな気がしてきた。

でもまあ、マルエルが墮天使になつていなければ謎だな。マルエルもあの世界にいたっぽいんだけど、詳しい事はまだ分からない。う、難しいこと考えて我慢しようとしてもきゅう、つと膣内が絡みついてきたために射精感はどんどんこみ上げる。これ、何度も射精を求められて氣絶するように眠るパターンじやん。

「ああ、あつ、また、出る！」

「んつ……あんつ！……あふあ……はあ……はあ……はあ……はあ……出てる……」

何度射精してもお構いなしに腰を振る墮天使の姿を見て、リームやマルエルと交わる日の夜の時のような覚悟を決めたら、墮天使の方が先に寝た。……精力の種のお蔭か、十数回射精した程度では萎えなくなってきたし、体力も大幅に上がった。どんどん自分が人間じやなくなっていく恐怖。考えないようにしたいけど、それはただの逃げかなあ。

「旦那様、タオルです」

「ああ、ありがとう。」

……やバイな、どんどん堕落していくてるの自覚してしまわ

「もつと欲望のままに好き勝手して良いんですよ？」

私もお手伝いします！」

「ええ……」

堕天使とひたすらにセックスする姿を純真な天使達に見せつけるという悪逆非道なことをした後、お風呂に入つてスーラに身体を洗つて貰つて、お風呂から上がつたらリームからタオルを渡される。……もう俺はダメかもしけない。どんどん自制ができなくなつていてる自覚はあるし、余裕が出来たことで選択肢が多くなつた。

特に常に傍にいるリームが俺を全肯定してくるので、少しづつ自分が偉くなつていてるような錯覚を覚えてるんだと思う。

……スタンフォード監獄実験の結果では、最初がどのような立場や性格であれ、周囲の求める立場や役割が与えられると、人間はそれに応じるようになる。特に権力を与えられた側の人間は、本当に自身が偉くなつたかのような錯覚を起こす。

俺の親戚の叔父さんは、昔はとても優しくて俺にお小遣いをくれたこともある。しかし「日本の政治家はお金を貰いすぎている。俺が日本の政治を変えてやる」と言つて政治家に転身して数年後。先生と呼ばれる立場となつてから叔父さんは「国民のために働いている政治家が沢山のお金を貰うのは当たり前」と言うようになつた。

……時々、謙虚になる時間は作ろう。こんな与えられた力で好き勝手し続けるなら、いつの日か簡単に破滅するかもしれない。まあ何を言つても天界で起こした一連の罪は流れないんですけどね。レイプ、誘拐、襲撃、拉致、監禁、拷問とか犯罪のフルコンボで乾いた笑いすら出ないわ。

「……ところでマルエルは何で堕天使にならないの？」

「ナオヤは、堕天使になつて欲しい？」

「えー、どうだろう？ 今ままが良いかな？」

「じゃあ今までいる」

「天使と堕天使つて、そんな感じの選択制なの？ それとも階位が高いから？」

「違う。おいしい」

ちなみに、マルエルも堕天使になれるようだけど黒い羽根の口り幼

女マルエルを想像したら完全にサキュバスとしか思えないから今そのままの姿をお願いする。今ままの姿でも実質サキュバスだけど。まあでもこれから、堕天使なら増えるだろうし、天使の姿のままで良いんじゃないかな。

そんな日常会話から数分後。スマホを見ていたらバナー部分に『嫁ガチャ！月末のステップアップガチャ開催！』と表示される。

それをタップすると、ガチャ画面に移行し『10連ガチャ3回でUR：【墮天使長】ベリファードが当たる』との表示が。1個1円の宝石の必要量は1回目3000個、2回目30万個、3回目3000万個。このステップアップガチャ、高いけど安すぎる。

第13話 ステップアップガチャ

そう言えばリームが最初に来た時も、月末にステップアップガチャがあるということは言っていた気がする。……なんかピンポイントな存在が確定で当たるつてなっているし、俺以外にプレイヤーがいるのかは疑問。俺のためだけにアプリが存在しているなら、何故アプリという形式を採用したんだろう。

1回目、2回目と10連ガチャを引き、2個目のムーンゲートが当たる以外は全部外れ。でも3回目で確定演出が入り、画面には黒いワンピースを来て鎌を持っている長身の女の子の姿が。胸元が大きく開いていてミニスカワンピガーターベルトハイソックスとか色々と詰まってるな。

UR：【墮天使長】ベリファー

「うふふ。お願いするわね、マスター」

背後からは、画面にそつくりの墮天使が声をかけてくる。大きな胸を腕で持ち上げる様は、童貞のままだつたら勃っていたほどエロいしおみしだきとなる。

その墮天使を見て、スチャヤと槍を構えるマルエル。そう言えばこのアプリ嫁が当たつて、嫁からの好感度が最初から天元突破しているのは別に良いんだけど、嫁同士の相性とかは考えてくれないんだな。マルエルが槍を構えたのを見て、ベリファーも元から持っていた鎌を構える。怖い。

……いや、この家で天使と墮天使の戦いを始めて欲しくないんだけど。というかさつきマルエルは墮天使の檻に俺を突っ込んだ気がするんだけど、ベリファーを見て敵意を抱くってどういう関係なの。

とりあえず先に槍を構えたマルエルをなだめて、ついでにマルエルのワンピースの下から手を突っ込んで身体を撫でまわす。これだけでご機嫌になるんだから分かり易い存在である。あつという間に艶っぽい声を出す幼女に毒氣を抜かれたのか、ベリファーも鎌をどこかにやつた。……正確には、空間を切り裂いてその中に入れた。もう何でもありか異世界人。

「んう、もつとお。

ちゅるう…ちゅつ、ちゅう、んつ！」

背後からマルエルのお腹やお胸をペタペタ触っていると、口づけを求めて来るマルエル。堕天使よりも堕天使している幼女である。お股の方を触るともう濡れていたので、勃起してしまったペニスをインサート。背面座位つてこう、抱きしめた時に相手の身体の正面をまさぐれるのが良いよね。

「んちゅ……ちゅる、ちゅう……じゅる」

背後からマルエルのお口に指を突っ込むと、その指に吸い付き唾液を絡ませてくるマルエル。そして登場してからずっと放置されるべリファーに向かつて、得意げな顔をしたようでベリファーがムツとした。この幼女、リームやスーラと比べたら独占欲というか、そういうのがあるのかな。

あ、そうだ。せつかくだしさつきステップアップガチャで当たったSSR・次世代型精力剤EXでも使おうか。3000万円で10連ガチャを回して、当たったSR以上のものはこの精力剤とベリファーだけだな。まあそれで十分過ぎるというか、文句を言う要素は皆無。

精力剤EXはかなりの回数をこなせるようになるし、これはもつと凄いんだろうなと思つたら急激にマルエルの膣壁の締め付けがきつくなる。あ、これ肉棒が大きく太くなってるな。うわ、お腹の上から触れる。ボコオツってなつてる。

「あえ？お！お、!!お、

おおお、お!?」

「……動かすね？」

背後からマルエルの腰を掴み、ゴリゴリと膣壁を削るように腰を振り始めるべリファー。狂つた獣のように喘ぎ声を出し始めるマルエル。幼女が出しちゃいけない声出してるな。案の定、ベリファーさんがドン引きだよ。

なおマルエル自身がこれで喜んでいるのは感じ取れる。初対面で犯せという性癖異常天使だ。「ナオヤにオナホ扱いされてバツクからガンガン突かれたい」とか真顔で言つて来るマルエルだ。むしろ望み

通りである。

力も湧き出て来るというか、もう元々マルエルぐらい楽に抱えて犯すことは出来るんだけど、その活力が湧いて出て来るので立ち上がりてマルエルを抱っこしながら奥まで挿し込み、中に出す。

「ふあ、あつ……ああ！」

「……ほどほどにしないと、この娘壊れちゃうわよ？」

「壊れない。このままナオヤのパンツになる」

身体を震わせて盛大にイッたマルエルは、それでも合体している状態のまま腕と脚で抱き着いて来る。このまま俺のパンツになるとか言つてるが、女性を下着にする趣味はないので引き剥がす。

……本気で抱き着けば引き剥がされずに、延々と俺から精液を搾り取るフェイスハガードの股間版ペニスハガードにもなれると思うけど、俺に引き剥がされるということは本気じやない。

「やるけど良いの？」

「ええ、もちろん」

マルエル相手に大量の精液を出したのにも関わらず、なおも痛いぐらいたる勃起をしているので、ベリファーを押し倒して陰茎を押し当てる。クリトリスを亀頭で押すと、それだけでベリファーの入り口から愛液が流れ出す。

手でベリファーの秘部を触ると、にゆるにゆるしていて受け入れ態勢が万全だった。俺とマルエルがヤツっている時に、ベリファーの手が股間に伸びていたので弄つていたのだろう。ゆつくりと、俺のいきり立つたあそこを挿れる。

「く、あつ、狭いな」

「あああっ！……あ、ああっ……ああ……。

ん、ちゅつ……ちゅつ……ふはあ……んちゅ……ちゅう、ちゅ……はああ

⋮

マルエルのおまんこは肉々しいおまんこで、身体が小さいし締め上げてくるので狭く感じていた。しかしひベルファーのおまんこはマルエルとは違い、狭いのは入り口だけで奥にツブツブがあり、吸着力が

ある。数の子天井つてこんな感じなのかな。

キスを繰り返し、正常位でゆっくり腰を動かす。その後、両足を持ち、奥を味わうよう膝立ちの状態でがんがん突くとプルプルと大きな胸が揺れるのでもちろん揉む。背中からマルエルが抱き着き、心地良い愛撫をし始めたので、俺の方に余裕は無い。

「あつ……あんつ……ううん、ふあつ、ああつ……ああ……！」

「ほら、イッちゃえ」

「あつ……でる……！」

こちらが突く度に、艶めかしい喘ぎ声で喘いでいると思ったら、最後に余裕のある笑みでキュッと締め付けて来て「イッちゃえ」と囁いて来る。あれさつきまでの全部、演技だつたの!?と驚く間もなく射精すると、気持ち良いはずなのに結構な敗北感を味わった。

「気持ち良かつたでしょ？」

マスターの望むことなら、何だつてしてあげられるわよ

「じゃあ感度3000倍になる薬打つても良い？」

「……自分の力で感じさせようとか、マスターにそういう気概はないの？」

「いや完全に百戦錬磨の経験豊富なビッチじゃん。半月前まで童貞だった奴には辛いって」

「私、マスターが初めての相手よ？」

「え、嘘でしょ」

「本当のことよ？」

ベリファーアーも俺の望むことなら何でもすると言つて来るけど、じゃあ自害しろとかは言えないチキンです。……どう考えてもさつきの演技はこなれているんだよなあ。外見はストライクゾーンど真ん中の黒髪高身長巨乳人外お姉様だし、文句はないけど。というかこれで文句を言うとか贅沢過ぎる。

これで嫁ガチャから現れた女の子は4人。ショゴスロードのリーム、天使のマルエル、スライム娘のスーラ、堕天使のベリファーアー。共通項は人外であることぐらいかな。後は全員性的関係を求めて来ること、俺に対しても少なからず好意を抱いていることぐらいか。

とりあえず墮天使長という存在が登場したわけだし、今牢屋にいる天使を全員墮天使にしても問題はないのかな。さつき飲んだ精力剤のせいで納まる気配はないどころか、どんどん大きくなっているし、これを天使の少女達に小さな処女マンコにねじ込んで墮天させるのは……正直に言うと、めっちゃ興奮する。

再度牢屋に行くと、天使達は全員裸の状態で拘束されている。もうこうなつたらやることは1つだし、存分に楽しもうか。

第14話 蹤躡

まずは1人目、小ぶりなお胸をお持ちのボブカット天使に焦点を合わせる。なお当の天使はリームにイカされ続けたのか、目の焦点が合っていない模様。でもまだ墮天はしていないから、処女膜を突き破つてはいないということなのかな。まだ墮天する正確な条件とか俺は理解していなければ。

腕を拘束されているとはいえ、元気な状態だと不意討ちで殺されそうだったし、ぐつたりしている状態じやないと危ないとリームは言つていたけど、ここまで追い詰められるのは凄い。

「いや……こわれちゃう……」

「ちょっと待つて！あつ……まつ……ああつ！」

リームとかマルエルとか、惚けた表情の女の子とやるのも良いけど、虚ろな目をした女の子はそれはそれでそそのものがあり、処女膜を突き破つて奥に突っ込んだだけで天使は意識が落ちた。……反応がないまま犯すのはちょっと避けたいので、起きるまで待とうか。

繫がつたまま手を伸ばして、正面から激しく尻を揉む。この天使、胸は小ぶりで硬いのに、尻はかなり柔らかくて柔軟に形を変える。叩いてみたらプルンと波打つし素晴らしい。ずっと揉んでいられる尻は良い尻だ。

……それでも、さつき飲んだ精力剤のせいで息子が大きくなりすぎている。大真面目に長さが20センチぐらいあるのは女性側にとつて負担でしかない。人外の耐久力がなかつたら、裂けてそそうだ。鉄のように固くなっているし、こんなものを一気に奥まで入れられたら相当な負担になるのは間違いない。

うつ、向こうの意識が落ちてしているのに、動いていないのに、天使の膣内が気持ち良すぎて出そう。もう結構な回数挿入は経験したつもりだけど、慣れたとはまだ言えない。もういいや、中出ししちゃえ。「んつ、んむうつ、んつ、んくつ……んつ、んぐう……んくつ、んん！」

正常位でのピストンを行い、中出しをした結果、結合部からだらだらと流れ出す精液。1回の射精での精液が自覚出来るぐらいに増え

ているのは、何か嫌だな。それでも天使が起きなかつたので、一度引き抜いて口の中に突つ込んだら目を覚ます。噛まれるかなと思つたけど、既に堕天使化が始まつてゐるのか、もゞもゞと口内を動かそうとするだけに留まつた。

刺激が弱かつたので、喉奥に打ち付けるように腰を動かすと、若干涙目になる天使。時々喉に突つかかる感覚が気持ちよく、最後は喉奥で勢いよく射精した。それを涙を流しながら懸命に飲み込む天使は、既に翼が半分黒に染まつてゐる。口を開けさせると、呑み込めなかつた精液が口の端から零れ落ちる。

「んつ、ちゅるう…ちゅくつ、ちゅう、ちゅう…」

「ん!?…ちゅるう…ちゅ」

それをすかさず舐めどるマルエル。天使を犯す際、万が一があつた時のための護衛として置いていたのに、我慢できずに参加しちやうのがマルエル。そのままマルエルと天使が軽いキスをすると、天使側は普通にそれを受け入れた。綺麗な顔立ちのマルエルにキスをされ、天使だった存在は顔を真つ赤にしながら、マルエルから差し出される舌に舌を絡ませる。

半分黒くなつていた天使の翼は、マルエルとデイープキスをした瞬間に真つ黒に染まる。しかしマルエルの羽根は真つ白なままだし、黒くなる気配すらない。……うん、よく分からん。後で堕天使長のベリファーカ、リームからの拘束責めをされ続けているウリエールに聞こうかな。

「じゃあ次は、君ね」

「ひっ!」

1人目の天使が堕天使になるまでの光景を見ていた2人目の天使、3人目の天使、4人目の天使にもそれぞれ順番に挿入してずぶずぶ動かして中出しをするというサイクルで犯す。4人の天使達に合計で10回ほどの射精をしたけど、萎える気配はない。飲んだ精力剤ヤバすぎるし、精力の種とかを食べている効果もあるのだろう。

なお俺が中出しを複数回しても羽が半分黒くなる程度なのに、マルエルが性的なことをすると真つ黒になる模様。……最初の天使も、犯

した直後は別に羽が黒くはなつてなかつたな？でもリームの腕から出て来た時には墮天使になつていた。ということは、リームやマルエルが何か決定的なことをしているのだろう。そこを気にして仕方ないから、気にしないようにしたいけど、でも気になる。

これで最初の墮天使を含め、5人の墮天使が誕生したことになる。名前は墮天使長のベリファーが順番にアルファ、ベータ、ガンマ、デルタ、イプシロンと名付けた。天使の名前つて全員似たり寄つたりで覚え辛かつたので、こういうわかりやすい名前は覚えやすくてありがたい。

そして全員、性に貪欲になりました。まあ墮天した時の理由が理由だからそうなる。アルファが右腕、ガンマが左腕、デルタが右脚、イプシロンが左脚に抱き着き惜しげもなく女体を押し付け、天使だつた時は挿入しただけで気絶していたベータが騎乗位？の体制で腰を振る。墮天使5人による贅沢なハーレムプレイだが、かなり特殊なことをしている。

……この5人は、マルエルのように謎パワーで空中に浮かぶことも出来るし、それは墮天使になつた状態でも可能だ。だから俺は今、5人の墮天使によつて天井から宙吊りにされている。

逆騎乗位、とでも言えば良いのだろうか？上下が反転した騎乗位の状態だ。天井が床に、床が天井になつているとかちよつと怖い。頭に血が昇る感覚もあるし、天井を背にするのは奇妙な感覚。

ベータは逆さの状態で挿入を始め、上下に動き続けている。ベータの手のひらに収まるおっぱいや、アルファやガンマの普段は下にタップンと落ちて揺れるおっぱいが、上にタップッと落ちている様子は、この状態でないと見れない光景だろう。重力に負けて上に垂れるおっぱいは、見ていてエロい。

「んはあ…あんつ…れろつ、ふはつ、れろおつ…ふあああつ！」

「べろ、れろ…ふつ、射精寸前の主殿の顔は可愛いな」

「いい、出る！」

「あつ！ああうん！……はあ…はあ…はふう」

俺の右頬を舐めるアルファと、左頬を舐めるガンマ。2人の吐息が

鼻にかかり、ふわりと甘い匂いが鼻腔に広がる。何で女の子って、至近距離だとこんないい匂いするんだろう。それと同時に、自分の臭いが相手にどう思われているのかちょっと気になつた。最近はスーラに全身くまなく食べられているから、汚くはないと思うけど。

おっぱいが上に垂れている状態で背を伸ばし、絶頂するベータ。それと同時に、びゅくびゅくと中に出される精液。精力剤を飲んでいるためか、挿入したまでもおまんこから垂れてくるほどの量になつており、それはベータのお腹から、胸へ、そして顔にかかる。

それを舌で舐めとるベータの顔は、美しい捕食者の顔だった。さつき処女を奪われて氣絶していた純真な天使だつたとはとても思えないほどだ。その光景を見て、チンコはベータの中により固く大きくなる。……たぶんこれ、明日まで勃起しつ放しかな？

5人の堕天使に代わる代わる逆騎乗位で奉仕して貰つた後は、風呂に入る。背中を流してくれるのは、俺が堕天使と楽しんでいた最中、ずっとウリエールを虐めていたリームだ。

「ふう。

何気に高い所は苦手だつたから、地に足着いてる方が良いわ」「え？ 曰那様ならあの倍以上の高さから着地しても無傷ですよ？」
「……そうなの？」

「50メートルの高さのビルの屋上から飛び降りても骨折するか怪しい程度には耐久力が上がつてますよ」

そのリームから人間卒業していることを聞かされるが、今のところはこの力を使って何かしようとは思えない。この力を使って有名になつたところで、デメリットしかないし。

というかお金も女ももう過剰気味だし、メリットがないと言つた方が良いか。この状況で有名になつたら、嫉妬とか妬みとか飛んでくる可能性もあるし、騒がないのが一番だな。

第15話 引つ越し

ムーンゲートは満月の時に視認出来るようになり、開閉が可能になる。しかし普段は目に見えないし、移動先は固定されてるし、ムーンゲート自体を移動させることも出来ないようで、非常に不便。そんなムーンゲートの2個目が当たり、これもどこかの世界と繋がっているという説明を受ける。

……これ、地獄と繋がつてそうだなあ。天国の次に地獄に行くとかあり得そудだし、死後は間違いないく地獄行きだろうし、この門は開閉したくない。

そして2個目が出て来たということは、3個目4個目も出て来る可能性が出て来たということで、ガチャを回す気力が落ちる。いや落ちても1日10連10回ぐらいは回すけど。他にやることないし。

今日は2021年4月29日。満月の日から2日経過しており、次の満月の日が5月26日だから当然のことではあるが1か月先のことになる。もしもバイトを続けていたら、今日は祝日だから書き入れ時だし出勤していただろうな。そうして稼いでいた1万かそこらの金が、10連ガチャを1回タップするだけで稼げるようになったのが一番大きい。

二ートになつたから、曜日感覚は薄れているけど今日は木曜日だ。で、木曜日と日曜日は曜日限定ガチャが無かつたはずなのに今日になつて木曜限定ガチャが実装されていた。なので回してみると、各種の種と世界樹の葉が当たる。どこの世界樹の葉なんですかね。死んでから1日以内の死者であれば誰か1人を生き返らせることが出来るとか、どう活用したら良いんだよ。

「じゃあ旦那様が死んだ時のために私が持つておきますね？」

「……まあリームの戦闘力が一番高いなら、それが一番良いだろうな。エリクサーも預けているし」

やたらと当たるSSRの中の外れ枠エリクサー、たまに当たるS Rの回復ポーション、天界で採取した回復効果のある水などは今とのころリーム：マルエル：スーラに7：1：2ぐらいの割合で渡していく

る。まあリームが大きく負傷する敵とかがいたら、必然的に待つているのはパーティーメンバーの全滅なので、今までこの割合が一番良かった。

……でもベリファーが増えたし、今後も増えると思うからマルエルやスーに渡している分はそっちに回るかな。天使や堕天使は回復魔法を使うことが出来るし。そう言えば堕天使達が牢屋から出て、一緒に生活することになつたので家も少々手狭になつた。

4LDKとは言え、俺、リーム、マルエル、スー、ベリファーの5人と墮天使の5人、後は牢屋に入っているウリエールで計11人ともなると結構な大所帯である。

なので、土地の安い北海道にある広大な豪邸を買うことにする。東京から引っ越すとか、1人暮らしていた時には考えたこともなかつたな。

物件を色々と探していると、ちょうど8LLDDKKという馬鹿でかい物件が1億を下回る価格で売っていたので購入。こんなの東京で買つたら幾らするんだ。土地面積1200m²、建物面積1000m²とか絶対今の手持ちの10億じゃ買えないだろ。広すぎて怖い。

……購入に必要な手続き等は、全部リームに任せた。登記とか面倒だし、何か増築していたらしくから処理すべき事柄は多かつたようだけど、全部やってくれた上に値引き交渉までしてくれたようで何故か9000万が8000万になつていた。1割以上も下がるなら、やっぱり値引きってやらないと損だな。

なお全ての処理が終わつた4月30日に早くも引っ越し開始。ムーンゲートがここに置かれていて移動不可だから、この家を売るわけにはいかないな。マルエルとスーは一緒に外で歩くだけで怪しいので、リームとベリファーの3人で羽田から飛行機に搭乗。2人もスーツを着ればただのOLである。人生2回目の飛行機だけど、こんな形で乗るのは思わなかつた。

「後で家同士、行き来出来るようになるんだよね？」

「ええ。マルエルとベリファーが門を繋ぐので、行き来は自由に出来ますよ。良い感じにつなぎ合わせたいですね」

「……運送会社やつたら儲かるだろうな」

「旦那様。儲けたいのであればガチャを回し続けて下さい」

美女2人を連れて、平凡な一般男性がファーストクラスに搭乗するけど特に不審がられていることはない。高い金を払っているので機内食等が豪華だったが、機内食をゆっくり楽しむ時間もなくすぐに札幌に到着。国内線のファーストクラスは普通席の1・5倍程度の料金だったけど、この短時間で1・5倍も払うのかと思ってしまうのは俺が貪欲性だからだろう。

札幌の空港から東へ車で1時間弱。かなり辺鄙な場所の物件を買つたが、隣人との付き合いも無さそうな地域であり、周囲に何もないからこそ建てられた馬鹿でかい格安2世帯住宅だ。

いや、本当に笑うぐらい何もないな。まだ空港から60kmぐらいしか離れてねーぞ。見渡す限り延々と草原が続くとか、人生で初めて見たかもしれない。これ、リームが自動車を出せなかつたら結構駅から歩いていたな。一応バイクと車の免許はあるから、リームが車を出せなくともレンタカーで何とかなつたとは思うけど……。

……たぶん、腕を車に変形させていたんだよな。車の中の空間がやけに広かつたし、座り心地とかも最高だつた。もうリームの存在が便利過ぎて完全に依存している。それでいてリーム本人は依存大歓迎だから質が悪い。

一応、来た道には何個か倉庫みたいな建物が遠目に見えるけど、冬は陸の孤島と化しそう。まあもしさくなつても東京にある家と繋がるから、食料不足とかには陥らないし、何なら冬は東京中心に過ごしても良い。

今後のことを考えるなら、良い買い物だつたと思う。問題は冬まで俺が生きていられるかというところだけど。いやこの調子で女の子が増えたり、異世界に関わつたりしていたら、元が一般人の俺はつきり死んでしまうこともあるだろう。もしくは唐突に『嫁ガチャ!』のアプリが終了するとか。

……唐突に始まつたんだから、唐突に終わる想定もしておかないといけない。そうなつた場合、彼女達は消えるのか、元の世界に戻るの

か。もしくは……洗脳状態が解除されたとか記憶が削除されたとか。手に入った財産はどうなるのか。可能な限り現金化はしているし、高い家具や家の購入に当たるが、それらは全て没収されるのか。……世界が上書きされるとか言つてたし、浅はかな抵抗は無意味だと思っているけど、それでも貯蓄したり隠し財産を作りたくなるのはもはや性だな？

「門の創造をする位置はこの辺で良いですか？」

「……良いけど、通るたびにSAN値とか下がらない？リスクとかないよね？」

「基本的にはないですよ。それじゃあ、創りますね」

ベリファーが壁の一部に手を当て、しばらくすると東京にある元の家と繋がる。うわすごいなこれ。実質4LDK+8LLDKKか。行き来は本当に自由に出来て、ただ家同士がくつついた感覚。本来の距離を考えていけない。

ついでに言うと、北海道の方は一部屋の広さが平均20畳だからもう何でもできそうな気分になつてくる。ガチャで当たっていたキングサイズのベッドも余裕で置けるし、風呂場なんてもはや銭湯レベル。何人一緒に入れるんだこれ。

築17年とは思えないぐらいに新しいし綺麗な建物だから、これで一億円を超えないのは土地が安すぎるのと不便過ぎるからしかない。庭も広いし、もう東京は夏日が続いて暑かつたんだけど、北海道は5月なのに肌寒い。

「良かつたですね旦那様。今までガチャで当たった外車とか、これからは売らずに駐車場へ並べることもできますよ」

「駐車場スペースに8台ぐらい並べられそうだからな……いや北海道は本当にスケールがでかいわ」

まだまだ資産に余裕があるということは、沖縄とか海外の物件を買って繋げるということも出来るな。……島とか買って、そこと繋げるのとかも良いかも。何はともあれ、これで家が広くなつたわけだし、周囲にバレるリスクも減つたから良い買い物だった。

第16話 煙天使

一旦東京に戻ると、若干痩せたウリエールがどうとう天使としてのプライドとか矜持とかそういうのをかなぐり捨て、命乞いを始めたので北海道の方のお風呂に連れて行つて一緒に入る。何かもう魔力とか天使パワーとかをリームに吸い取られ過ぎて、マイナス値に突入しているから、しばらくの間はずつと力が0以下らしい。

それでも一緒にお風呂に入るとか危険でしかない行為をしているのは、リームが大丈夫と言つたからだな。……ちらつと調教シーンを覗いてみたら耳の穴からリームの触手が入つてくちゅくちゅさせていたし、これ以上放置して人格が破壊されいたらSAN値が減る。というか減つた。もう若干雰囲気がマイルドになつてるし。

さて。ウリエールは煙天使を名乗つていたけど、要するに天使の中ではトップクラスの存在ということだろう。身長は2メートルを超えているし、胸は頭が挟まれそうなぐらいには大きい。というか乗れそうだなこのおっぱい。椅子代わりにしたらめっちゃ座り心地良さそう。

あまりに大きいせいでとなりに立つと圧迫感が凄いけど、この大きさの天使が翼を広げていても2人でゆつたり入れるお風呂の広さの方がヤバイ。ちょっと拡張すれば、全員が入れそうだな。

「はあ、眼福眼福。天使つてみんな美人だし、肌も綺麗だし何で性欲を抱いたらダメなのか理解に苦しむわ」

「……逆に聞くが、地上の男は何故胸に執着する？ただの脂肪の塊だろう？これに触るがために、罪人になるなど理解に苦しむ」

ウリエールの胸を揉み揉みしながら、ウリエールからの質問について考える。男が胸を好きな理由は諸説あるが、個人的な考えだと、恐らく柔らかいからだろう。ただでさえ柔らかい女性の身体。その中で男ではない、柔らかい部分に執着するという点においては胸派も尻派も太もも派も共通しているだろう。

後は単純に、赤ん坊の頃はみんながおっぱいに吸い付いているから母性を感じるだとか、胸が大きいのは栄養状態が良い証拠だから、健

康な子孫を残せる証拠だとか……普段は隠されているから、より興奮を高める材料になつてているという理由もありそう。

まあでも、そんなことはどうでも良い。大きなおっぱいに埋もれて死にたいと思うのが日本男児の性であり、揉んでも良いという状況になれば一日散に揉みたくなるのがおっぱいだ。というか目の前におっぱいがあつて、それが揉んで良いおっぱいなら普通は揉むだろ。「揉みたくなるのはまあ、男の本能だな。

というかこの大きさでもピカピカとは浮かないんだな。張りがあるからか

「本能……本能か。

……この後、私のことも犯すのだろう？ 本能に従つて。原始的な猿のよ」

「発情薬どーん！」

何か天使のウリエールに煽られる予感がして、非常に嫌だつたのでスマホを弄り『姫ガチャ！』の倉庫から発情薬を取り出す。前にリームに使つたら、意識を飛ばしたまま丸一日延々と犯し続ける状態になつたぐらいには発情するお薬です。これがSRでばら撒かれるのヤベーよ。もし不特定多数の人間がこのアプリをプレイ出来たら、一週間も持たずに日本が崩壊するよ。

特に抵抗もせず発情薬を飲んだウリエールは、それでも平常心を保とうとしている。だけどちよつと割れ目をなぞつたら、指先にぬつとした感触があつたので天使でも発情は出来るらしい。おっぱいがエロいものだと認識出来ない存在が発情するつて、やつぱりこの薬も結構ヤバイな。自分では飲まないようにしよう。

とりあえずマットを取り出し、横になるように言つたら素直に仰向けになるウリエール。プライドをかなぐり捨て過ぎである。それでも、横になつて貰うと改めて巨体だなと思う。山みたいなおっぱいが上下してるよ。

……ウリエールに対してリームが色々とお薬を使つていたと思うけど、普通の発情薬で効果はあるんだな。次いでリームがひたすらに弄つていたのに、大して外觀は変わらないピンク色をした乳首を抓る

と、目を瞑つて「んんっ!!」と逝くウリエール。ちよつと魔改造され過ぎじゃないですかね。

そして挿入した瞬間、翼が真っ黒になつて墮天使となるウリエール。一気に貫いたせいか、明らかに血だとわかるような感触が広がる。痛みに耐えるウリエールだつたが、やがて目を閉じて足を絡ませてくる。ちよつと今までの凜々しい姿はどこにやら、今では感じすぎて腰を右左に振つてゐる。

こちらが腰を動かすとぐちゅり、という音が鳴り、腰を早く動かすと緩くなつたおまんこが、それでも締め付けようと纏わりつく。やっぱり虚ろな目をした美女を無理やり犯すというシチュエーションは興奮させるのか、いつもより大きく勃起してゐる気がする。

「……うあ……っ……」

一突きごとに掠れた声を出し、ねだるように腰を振るウリエール。もう心まで墮天し切つているなこの熾天使。腕と脚で拘束され自由が少ない中で、それでも腰を動かすと射精を促すウリエールの中の動きに耐え切れず、そのまま膣内で精液を出してしまつ。

そのまま脱力して大きなおっぱいの谷間に頭を預けたところで、試しに乳頭を咥えて吸つてみると母乳が出る。うわマジで魔改造されてるじやん。しかもなんか甘い牛乳つて感じで凄く美味しい。よく母乳は赤ちゃん用だから味は薄いつて聞くけど、めっちゃ濃厚。完全に俺用かこれ。

すでにウリエールは力が入らないようなので、こくこくと喉を鳴らして母乳を飲む。……胸が大きいというか、身体のサイズが大きいからリームやベリファーと比較してもかなり巨大なおっぱいだ。しながら腰の部分は少し痩せ細つており、ここ3日間のリームの責めが如何に苛烈だつたかを物語つてゐる。

しばらくはこのままゆつくりとウリエールのお胸を弄ぼうかなと思つていたら、ウリエールの口から「ヒール」という言葉が漏れる。次の瞬間、ウリエールに圧し掛かっていた俺は、ウリエールに圧し掛けられる格好となつた。

強制的に右胸を口の中にねじ込まれ、母乳がどんどん口の中に入つ

て来る。それと同時に結合部ではピストンが開始され、先ほどから少し血が垂れているが、ウリエール本人に痛みは無いそうで、激しく腰を上下させる。

連續してウリエールに中出しをし、若干のぼせて来たところでリームに持ち運ばれて寝室まで移動。当然のようにマルエルやベリファー、堕天使達も着いてきたので、寝室にあつた大きなベッドの上は、女で埋め尽くされている。

「……リーム」

「何でしようか？」

「あれ、甘噛みじやないよね」

「甘噛みじやないです。マルエルの本気の噛み付きで喜ぶなんて、ウリエールの身体は鋼で出来ていますね」

寝室でも発情したまま騎乗位で腰を振り、マルエルにおっぱいを噛まながら何度も逝くウリエール。リームやマルエルを騎乗位の時に下から突くとたまに見れる潮吹きだけど、ぷしゅっと大量の潮を吹いた女性は初めて見たかもしれない。

マルエルが若干憎しみの籠つた目でウリエールのおっぱいに噛み付いても、ウリエールのおっぱいは数秒で跡一つ残らない綺麗な肌に戻っていた。これが元熾天使のパーフェクトボディですか。後日、試しにマルエルに薄い鉄の板を噛ませてみたら、小さな犬歯が貫通していたのでマルエルの噛み付き力はかなり高いと思う。

地味にこの幼女、俺の次にやりたい放題してるな。お腹がたぷたぷになるまで母乳を飲んだようだし、その後は俺に抱き着いて寝る自由奔放っぷり。まあ可愛いから別に良いけど。寝ている時に後ろから挿入して抱え込んでも全然怒らないどころか「もつとして」と言い出すし。

ウリエールが最後に大きく絶頂して、ばたりと倒れた後は堕天使達と普通のプレイを楽しむ。堕天使達は背丈が近いから、対面座位でキスをしながらお尻を触つたり、後ろから挿入して耳元で囁く等のプレイが出来るのは嬉しい。

墮天使になつて母乳が出るようになったか聞いてみたら、この5人

の中では一番胸が大きいガンマは母乳が出るようになつたようなのでそれに吸い付きながら寝る。……明日から5月だが、明日の天気予報を見たら雪だつた。というか現在進行形で雪が降つていて。北海道つて、5月でも雪が降るのかよ。そりや裸だと寒い分けだ。

第17話 GW

せつかく北海道に来たのだから、美味しい海鮮物を食べたいと言つたらリームが大量の魚を捕まえて来た。どうやつて捕まえたのか聞いてみたら、貰い物ですの一点張り。……貰つたのが本当なら、誰からその鮭とか蟹とか貰つたんだよ。

しかもリームが綺麗に鮭を捌いていると、凄く脂が乗つているし高そうな鮭だということが分かる。一切れ生で食べてみると、マグロの大トロにも負けないほどの脂が乗つており、非常に美味しい。

「……あ、鮭つて生はダメだつたつけ？」

「万が一内臓に寄生虫が居ても、身に移る前に除去しますよ。

水揚げ後数瞬で内臓まで処理しますし」

GW初日。北海道で鮭や蟹などの具が大量に乗つた贅沢な海鮮丼を食べた後は、東京の新宿にあるヨドバシカメラで今まで買えなかつた高いイヤホンやゲームを買い漁り、ついでに高い家電も大人買いしていく。家が広すぎて、家電か何か買わないと落ち着かないわ。後は調理機器とかも一通り買っておこう。

1日で、1千万円近い額を使うが気にもならない。今日引いた土曜限定ガチャで、SSR・土地100坪(○○都○○区)が当たり、リームによると5億近い値段で売れるそうだし、そうでなくとも残高は増える一方なので使わないと損をしている気分になつてくる。

……異世界に行く時用に、アウトドア用品も買っておくか。適当に2つ3つ快適に過ごせそうなテントを買い、シュラフや折り畳み式の椅子なども買って行く。いやあ、お金があるつて素晴らしいわ。散財癖がある人の気持ちも分かつてしまつたかもしない。

「……で、何でカロリーメイト10ケースも買って来たんです?」

「いや、満月の日にしかムーンゲートは開かないだろ? 1か月定住しても良さそうな世界だつたら1か月ぐらい滞在したいし、その間の食糧は必要だし……」

「冷凍マグロ、1週間に1匹のペースで増えているんですけど、それだけでも消化しきれませんよ?」

「知つてゐる。

他にも大量の食糧が倉庫に入つてゐるし、正直カロリーメイトは要らんかった」

浪費して無駄に無駄なものを買つた後は、どうして買つたんですけど責められるまでがセット。本気で責めて来る存在なんていなけれど。ここまで全肯定してくれる人しかいないと、逆に責めてくれる人が恋しくなる。

「これほど大きな家を買つて、好意を持つ女性が大勢待つてゐるのに、それでも引き籠つてゲームですか？」

「元々ＧＷはオンラインゲームで遊ぶ予定だつたし……何か上手く行きすぎて怖いから、逆に上手く行かないゲームをやりたくなる気持ち分かる？」

「どう転んでもゲームをやる言い訳に繋げて来るの止めません？」

「……他にやることと言えば、誰がこの状況を作つた黒幕か考える」とだけだけど？」

リームに引き籠つてゲームをするのは止めませんかと言われるけど、ゲームをやらなくなつて引き籠らなくなつたら、たぶんこの現象を起こしている黒幕を突き止めるまで延々と考へるだろうな。で、その答えはほぼ出ているし。言つたら今この快適極楽空間が全部崩れる可能性があるから言わないので。

「旦那様はそんなことを考えなくて良いんです！本気で犯しますよ？」

「どうぞ。

俺はＳもＭも気持ち良ければどっちでもイけるつて知つてゐるだろ」

リームの他は、全員北海道の方の家にいるから声は届かないだろうし、今日は一日中ショツピングをすると伝えてあるから邪魔が入ることはないだろう。東京の方の家にある自室。唯一変わらない俺の自室でリームに押し倒された俺は、あつという間に脱がされてリームに跨られる。

リームは濡れた瞳の入り口、大陰唇と小陰唇のところに陰茎を挟み、前後の移動を開始した。ふつとした感覚にペニスの下半分が包

み込まれ、少し大きくなっていたペニスは完全に勃起する。

「もうピクピクと……仕方ないです。
では、膣内に入れます」

「いつ!? あつ……」

「ふふつ、どうですか私の本気の搾精は?」

まるで快感を感じる神経以外、溶けているような感触でしょう?」
たぶんたぶんとおっぱいを揺らしながらリームは腰を上下しはじめ、挿れただけで限界に近かつた俺は我慢できなくなり射精する。射精した後は止まるかと思いきや、そのままリームは腰を動かし続け、精液を搾り取りにきた。そのまま2発目、3発目と搾り取られる。

……いやこれ本当に快感を感じる神経以外溶かされてない?スライラは不定形だけど一応透けて見えるから何をされているのかというのを見えるけど、リームに関しては不定形なのに膣内とか見えないから何をされているのか分からなくて怖い。明らかに膣へ挿入している時の気持ち良さじやない。

夕方から夜になつて、リームに勃起しなくなるまでしゃぶられた後、精力剤EXとエリクサーを投与され一緒に風呂に入る。これ明日の朝までずっと求めて来るんだろうな。ここまで美人に強く求められて、悪い気起こす男はないだろう。たとえそれが、人間より遙か上の次元の存在だったとしても。

風呂場には例のマットが敷かれており、そのマットにリームは寝転がり、腕を広げて待ち構える。若干、大きくなっているのは俺を抱きかかえるためだろう。仕方なく仰向けにして寝ると、後頭部にふよんとした幸せな感触が広がる。するとリームは分裂を行い、左右にリームと全く同じ姿形をした存在が現れる。

そしてリームの分身は全身に石鹼を塗つていき、腕を身体全体を使つて洗い始めた。ここまで至れり尽くせりなのが逆に恐怖を煽り、SAN値がゴリゴリ削れている音が鳴る。実際削れてそう。いきなり分身を作つて奉仕とか、スーラでもあまりやらないからな。

リームの分身A、分身Bのお蔭で俺の身体は泡塗れになり、下で自

分を支えていたる分身Aはペニスを両手で掴み、皮の中に指を入れ始めた。射精のし過ぎで半勃ちになつていたおちんちんは、再度完全に勃起し、また皮が完全に捲れる。敏感な亀頭を指で弄り、裏筋をカリカリされ、快楽で身をよじつていたら、上半身の洗体が終わつた。

「んつしょ、旦那様、これからペニスをおっぱいで洗つていきますが、射精は我慢して下さいね。

「から洗い直さないといけなくなるので」

「えつ、いやつ、むり」

「旦那様は早いから、ちょっとは我慢する練習もした方が良いですよ」「早くても回数が多くつたら問題無いですよ！だから精力の種とか精力剤をいっぱい使いましょう！」

そして分身Aは足の間に入り、その大きなおっぱいで勃起しているペニスを挟み込み、上下に動かし始める。分身Bは足を抑え込み、足の指を丁寧に洗つていく。泡塗れのパイズリは、想像以上に気持ち良く、ふにょんふにょんと柔らかな感触を味わつていたらすぐに限界まで追いつめられる。

射精したらにこやかな表情の分身Aが「また一から洗い直しですね！」とひたすら攻めてくるので、勃起が収まるまで精液を垂れ流すことに。いやこれ延々と終わらないんじゃない？精力剤のせいでもうずっとギンギンだろうし、リームの谷間からは精液が溢れ出る。

「はあ、はあ…んつ、ああつ！いつ、あつあうつ…んんつ…！」

「ああ……」

「やつぱり旦那様と私の相性は良いようですね。抜かずに5発行けそうです！」

「もう旦那様の目が死んでますけどまだ硬いですね？大丈夫ですか？」

「大丈夫ですよ。旦那様はそうなつてからの方がよく出ますから」

お風呂から上がつた後は、綺麗になつたおちんちんをひたすらしあぶられ、おまんこされ、ずっと射精することになつた。解放された瞬間、意識が起きることを拒むつて相当だと思うよ。しかしまあ、これ以上に幸福感のある睡眠導入はないだろう。本日21度目のリームの膣内への挿入を目視した後、俺は静かに意識を失つた。

第18話　日曜限定ガチャ

5月2日の日曜日。朝からマルエルに布団の上から乗られて目が覚めた俺は、いつものように『嫁ガチャ！』のアプリを起動する。朝に果汁系のジュースを飲むため、アプリ内の倉庫から取り出しているけど、単純にこのアプリが消えていないかの確認行動もある。

すると木曜限定ガチャに引き続き、日曜限定ガチャも実装されたため、これで全曜日で限定ガチャは実装されたということだな。……今やっているのがベータ版という説が出て来たけど、とりあえず引いてみるか。

必要宝石量は、10連で3億個。10連ガチャ1回3億円って凄いな。SSR以上確定らしいので、最低でも数千万円級のものが10個は当たるということ。というかこれ1割の確率でUR来るから10連回したら1つはURが当たるな。これからは毎週のようにURが当たつて嫁が増えるのか？

案の定、アプリ内で蓄えていた3億個の宝石を使用して日曜限定ガチャを引くと虹色の演出が入る。SSRが当たる時には入らない演出だから、UR確定です。まだベリファーが当たつてから3日ぐらいしか経つてないのにまた増えるのかと思いつつ、演出を待つとちょっと顔がメカメカしい女の子が画面に現れる。

UR：【終末機壊】アーキエスト

それと同時に、背後から気配を感じたので振り返ると美しい顔が至近距離に迫っていてビビる。いや毎回背後から登場するのは止めて欲しい。心臓に悪いわ。

「マスターの生体コード読み取り中。

……全て一致しました。お久しぶりです、マスター」

「……いや俺と君つてたぶん会つたことないよね？」

「止めて。俺の推論が眞実になっちゃうの止めて」

「おや？マスターは」

画面にアーキエストと表示されているから、名前は恐らくアーキエストなのだろう。そのアーキエストが何かを語ろうとした瞬間、リー

ムが凄い勢いで突っ込んで来てアーキエストの口を掴み、壁へと叩きつける。終末機壊とかカツコいい二つ名持つているわりには弱いな。リームが強すぎるだけだと思うけど。

「旦那様、このポンコツから何か聞いたことは御座いますか？」

「久しぶりとしか言われてないけど、それだけで俺の予想が80%ぐらいから99%に跳ね上がった」

「……答え、言います？」

「え、来月ぐらいまでは素直にハーレム王樂しみたいからそれ以降に言う」

リームがポンコツ扱いしたアンドロイド?は、見た目はただの美人さんだけど今は頭が壁に埋まる形でリームに押さえつけられており、若干もげた首の部分から機械のパーツが見える。普通にグロいから止めて。エロ関係ならわりと何でもイける俺でもグロと虫姦とスカトロと寝取られは無理だから。中でもグロは本当に抜けないから。

そして他の10連ガチャの結果は、4本のエリクサー以外はミサイル巡洋艦や火星の土地の権利書や温泉などなど。……なんかSSSRの中でも飛びぬけてヤバイやつばかり当たったな。というか温泉引いたらいきなり隣に温泉が建つのヤバイ。温泉の土地の買収をしているので全日貸し切りである。

「ねえ、ここに住んでも良い?」

「別に良いけど、温泉が熱いからその状態で抱くのやだよ」

「えー。アツアツのおまんことかきつと気持ち良いと思うよ?」

温泉は建つたが、しかし管理する人がいないと面倒なことになるのは理解しているのでどうしようか悩んでいたらスーラが温泉宿に移住する。たっぷり温泉の水を吸い込んだスーラに抱き着かれると、結構熱いので抱くのは勇気が要りそう。

ミサイル巡洋艦は当たった直後から倉庫行き。何に使えば良いんだこんなもん。火星の土地の権利書にいたっては、1億エーカーとか何の単位かわからない単位で当たっているので放置。火星の表面積の300分の1程度つてどんぐらい大きいんだろ。あまり実感が湧かない物が当たっても嬉しくない。

さて。アーキエストはリームにしばらく奥の部屋に連れて行かれ、そこで少し戦闘音が聞こえた後、リームがアーキエストの首根っこを捕まえて俺のベッドの上に放り投げる。……背中が丸見えだけど、ところどころ皮膚が剥がれて中の鉄っぽい背骨が見えるのどうにか出来ない?

「マスター。アーキエストの現在の身体損耗率は約12%です。そのためアーキエストのパフォーマンスは91%まで低下しています。アーキエストのパフォーマンスを100%にするため、今すぐアーキエストの身体にマスターの生命エネルギーを注入することを提案します」

「……生命エネルギーって?」

「精液です」

「完全にエロ科学者の作ったアンドロイドじゃねーか。……えつ、マジでエネルギー源が精液なの? どういう仕組みなの?」

「精子の運動エネルギーと精液の蛋白質分をエネルギーとして利用しています。また精液は私の体内で他のエネルギーを注入することで私の皮膚や臓器になります」

マスター、マスターと言い寄つて精液を強請る姿はどうみてもサキユバスのそれである。サキユバスに会つたことはまだないけど。そろそろ『嫁ガチャ!』で1人ぐらいは出て来そうなものなのに、そういう存在がいる噂すらリーム達からは聞かないけど。

しかし断る理由もないでの、アーキエストの身体に覆い被さつて挿入を試みるが股間に穴がない。するとアーキエストが「少々お待ちください」と言い、体位を騎乗位の体制に変え、穴がない股間に亀頭を押し当てる。

そして次の瞬間、アーキエストは腰を降ろして大きめの尻を打ち付けて来る。アーキエストの股間はスライムのようにめり込み、完全に俺の一物の形とフィットしているけど、何か凄く奇妙な感覚だ。柔肌で包まれているから、気持ち良くてあるんだけど、温り気とかも少ないし絶頂には至らない気持ち良さ。

でもまあこれはこれで気持ち良いからいいやと思って、顔を上げる

とゆつくりアーキエストの顔が近づいて来る。それも、ツインテールの髪の一部をバチバチさせながら。いや待てそのツインテールの先端をどうするつもりだ何で耳の中に入れる必要があるういおをう!?

「あ、あ、あ、あ、あ、！」

「マスターの絶叫を確認。搾精モードに移行します」

アーキエストの髪の毛が耳の中に入った瞬間、挿入した箇所は掃除機のような強烈な吸い込みと締め付けを始め、あつという間に射精してしまい、同時に全身が気持ちよく感じる。これ完全に電子ドラッグだろ。脳のイケナイ場所に電気を流されて身体が強制的に気持ちよくなってしまうとか絶対に危ないと思う。

目がチカチカするような気持ち良さが続き、ハマリそうだとか思いつつ射精が止まらない。初動の強烈な吸い付きが終わつたと思ったら、股間からローションのような液体が溢れ、溶けるような快楽で射精を促していく。というか実際にチンコが溶けていく感覺しかしない。射精している間に次の射精が始まり、終わりのない射精で根こそぎ精力を吸い取られていく。

……決して俺が早漏になつたわけではない。というかこれたぶん脳にある射精のスイッチを押され続けているんじゃないか?腰を動かすまでもなく、アーキエストの股間に大量の精液を吐き出し、俺の意識が完全に落ちるまで抜くことは出来なかつた。その後、大量射精の疲れからか眠くなり、静かに瞼を閉じる。

翌日、目が覚めるとアーキエストが正座をして首から『私はポンコツロボットです。マスターに貴重なエリクサーを4本も使わせてしました』と書かれた紙をぶら下げていた。昨日当たつた分の4本、全部使つたのか。

下手したらセックスで4回も死んでいたとか、考えたくないことだな。昨日のあれは最早セックスじやなかつたし、もう二度と味わいたくない強烈な快楽だつたけど……月一程度ならやつても良いかもと思つてしまふ自分もいる。アーキエストを止められる人の監視付きとかなら、もう1回ぐらいやつても良いかな?

最終話 真実

「ムーンゲートが当たったんだけど、これ全部東京の方の家に出現するの？」

「今のところはそうですね。私の力でも移動させるのは大変ですし月曜限定ガチャを引き、2個目のムーンゲートにもまだ突入しないのに3個目のムーンゲートが当たる。これ満月の日までにもっと増える可能性があるとかどうしたら良いんだよ。

それにしても、満月の日にしか開閉出来ないって不便過ぎる。まだ満月の日まで半月以上もあるんだけど、それまで暇だわ。

「ウリエールとベリファーに頼んで満月にして貰つたらどうですか？」

「……は？」

「ちょっと月を静止させて、満ち欠けを変えましょうよ」

「いやそれ月が落ちて来たり、月が軌道を外れてどつかへ行くことにならない？どうやつたら月を静止させるつて発想が出て来るんだよ……」

リームに月一でしか通行できないのが不便と訴えたら、月を止めたり動かしたりして満月を作れと言つて来る。何でそう簡単に自然現象を捻じ曲げるようなことが言えるの。
……ん？

「誰か、異世界への転移魔法とか使える人は手を挙げてー」

ちょっと気になつたので、誰か転移魔法とかそういうのを使えるか確認してみたら無事アーキエストが手を挙げる。なるほど、リームがポンコツロボットと言う所縁がよく分かる。アホの子だわ。

「……あれ？マスターの女なら全員使えた気がしますが、アーキエストだけですか？あいたっ!?」

「何で手を挙げるんですかこのポンコツロボット！」

そして全員が使えるという爆弾情報を落とされるので、俺の推測は確信に変わつた。

この異常現象の数々、俺にとつて都合の良すぎる展開。世界を上書き

きしている存在と、その黒幕について。

「あああああああああ！旦那様が全部確信した時の顔に変わつてます！ギミックを全て解いた時の顔をしてますう！」

……え、本当に分かつたんですか？私は旦那様でも1年ぐらいは分からないとthoughtっていたのに」

「まあ、ヒントは沢山あつたしな。それにリームも、全部が全部把握しているわけじゃないだろ？」

「……じゃあ聞きますけど、黒幕は誰ですか？」

何かリームが頭を抱えているけど、そんなに気付いたらいけないことをのだろうか。今現在、俺の身体に何も起きていない時点で大丈夫だと思うんだけど。

リームからの問い合わせに対し、ゆっくりと自分を指差すと膝から崩れ落ちるリーム。いやリームってそんなに愉快なキャラじやなかつたでしょ。今まで猫を被つていた人とか多そうだけど、それでもさつきからリームの百面相が面白すぎる。

「……正確に黒幕を当てられます？」

「過去の自分でしょ？」

「ええ、正解です。でも記憶自体は戻つていないんですね？あれ？それなら成功では？」

「ああ、うん。記憶はない。でも大方、過去の自分が何かの見返りに未来を要求したんでしょ？」

「うわあ全部当たつてるの怖すぎますよ旦那様」

この現象を起こしている存在について色々と考えた時、最終的に行きついた結論は「超越的な存在による壮大な実験」「未来の自分による過去改変」「過去の自分による未来創造」の3つだった。……この中に絞った上で『嫁ガチャ！』で当たた存在が過去の自分との記憶を持つていて、時点で答えは1つに絞られるわな。

「あまりに早く気付くと、記憶まで戻つてしまふ可能性があつたので避けたかったのですけど……これなら大丈夫ですかね？」

「……俺が記憶をこそつと削つた理由つてクトゥルフ神話関係？」

「それが大半ではあります、それだけではないですね。」

まあ消した方が良い記憶が多すぎたのは確かですが……未来デザインまでしてしまった以上、思い出さない方が良いでしょ？」

どうやら過去の自分は、記憶を消す前に未来デザインというものをした上で、リームによると結構細かく作り込んだらしい。……要するに『嫁ガチャ！』を作ったのは俺だな。リームが早く回せ回せと言つていたのは、出て来ていらない子達を出すためだったのかな？

「そこまで理解して、記憶が戻らないのなら、もう私のことは全部話しても大丈夫ですよね？」というか話しますよ？私は旦那様が居ないと存在意義を失うし、私のことを知つて欲しいので」

「記憶が戻る気配は一向に無いから喋つて良いぞ。どういう存在のかはもう大体分かってるけど」

「……私は元は、ただのショゴスの、分離体です。少し、いえ結構前に旦那様が私の元支配者を殺した時、私の支配権は元支配者から旦那様に移りました」

「ほーん。

……その元支配者ってニヤル？深き者？」

「そこはご想像にお任せします」

リームに突っ込んで聞くと、元はショゴスから分離したリームの主を俺が殺して所有権を奪つたらしい。知らん間に殺人者になつていた気分。こういう出会いの話すら記憶から消すつてことは、本当に思ひ出さない方が良い記憶満載なんだろうな。

「そこからなんやかんやあつて私はショゴスからショゴスロードとなり、更にその上の次元の存在となつた私は、安心安全で快適な未来という旦那様の願いを叶えてあげたわけです」

「ショゴスロードの更に上つていうともう候補は1つしかないんだが」

「……何でこの短い期間でクトゥルフ神話体系をほぼ完璧に網羅出来ますかねえ。」

まあ不定形の中では最上位の存在だと思つて貰つて良いです？」

「ウボ＝サスラ？」

「何で言葉を濁したのに言及するんですか。……旦那様つて、相変わ

らず死地でタップダンスするのがお好きですね。いや別に今は死地じやないですけど」

ショゴスロードを名乗っていたと思うけど、実際にはウボ＝サスラだつた。……ショゴスつて元々はウボ＝サスラの組織から出来たんだっけ？じゃあ原点回帰じやん。

「あー……宇宙の秘密を記した石板？」

「……その単語が出て記憶を思い出せないのであれば、記憶処置の方は完璧ですね」

「思い出したらどうなつてた？」

「また未来デザインをして貰つてから記憶処置をしていましたね」

クトゥルフ神話において、このウボ＝サスラは宇宙の秘密が書かれた石板を旧き神から盗んで罰せられ、知性を奪われている。……この石板は、見ただけで宇宙の秘密が頭に流れ込んで発狂する的なものだつたはず。

ということは、俺はそれを読んで発狂したのだろう。……全部を知っているリームは、たぶん耐えたんだろうなあ。しかし狂つていながらも未来をデザインしてから記憶を消すとか打算塗れで凄いな過去の俺。よくやつたぞ過去の俺。

……どこまでデザインしたかは分からないが、俺は過去の俺を信じよう。恐らく、寿命とかも伸ばす選択肢を用意しているだろうし、飽きが来ないようにガチャ形式を採用したのだと思う。

まあ、神に等しい存在に願い事を叶えて貰うなら、どういう人生を歩むかの設計だけして、記憶を消すつて常套手段のような気がするけど。大量のお金を貰つても、使い切る前に死んだらどうしようもない。圧倒的な力を願つても、周囲を傷つけるだけなら要らないだろう。

となれば、嫁や快適人生を願うのは当たり前だよな。……しかしまあ、リームは神と言つても差し支えない存在ということか。そんな存在とひたすらやる生活とか、俺も随分と偉くなつたものだ。「どちらかと言つて、私は神にして貰つた恩を返しているだけなのですが」

「じゃあまあ、随分と人間らしい神になつたんだな」

「それはもちろん。育てたのが人間ですから」

「……記憶はねーぞ」

「それで良いんです。狂つたままの旦那様より、今の旦那様の方がずっと良いです」

今日分かったことは色々とあるけど、今言えることは、この生活はたぶん延々と俺が飽きるまで続くだろうなということ。過去の俺が何をしてかしたのかは知らんが、そのお蔭で今の生活があること。
……とりあえず、今日もガチャを回すか。